

635.0957

MONO3197030735

大正十一年二月

園藝報告 第十一號

朝鮮總督府 勸業模範場 蘇島園藝支場



PL

緒言

92
3
28

本報告ハ大正六年ヨリ同十年ニ亘ル事業成績ヲ編輯シ有志者ノ参考ニ資セントスルモノナリ而シテ大正九年ハ不幸ニシテ開場以來ノ烈寒ヲ催シ加フルニ稀有ノ積雪ハ枝幹ノ周圍ニ氷結シテ十數日間融解セサル等未タ嘗テ觀サル異狀ヲ呈セリ之レカタメ耐寒性最モ強キ和梨ノ如キモ夥シク裂傷ヲ生スル等其被害慘狀ヲ極メタリ去レトモ其被害區域ハ主トシテ京畿及黃海道ノ一部分ニ過キス故ニ讀者其心シテ閱覽セラレンコトヲ

大正十一年二月

朝鮮總督府勸業模範場蘆島園藝支場長 技師 久次米邦藏

勸業模範場蘇島園藝支場報告 第十一號

目次

氣候 卜作物	一
肥料	八
苹果	九
梨	一〇
葡萄	一一
桃李杏類	一二
果樹類	一三
種類比較	一三
苹果	一三
梨	一八
葡萄	二七
李杏類	三三
模範栽培(一)	三六

苹果.....三六

梨.....三九

桃.....四〇

模範栽培(二).....四二

果樹ト蔬菜ノ共作.....四二

苹果自然形栽培.....四八

蔬菜類.....四九

比較栽培.....五〇

胡蘿蔔播種期比較.....五〇

里芋種子ノ大小ト收量トノ比較.....五三

長芋種子ノ大小ト收量トノ比較.....五四

南瓜株間比較.....五五

品種比較.....五七

セルリー.....五八

里芋.....六〇

蕃茄.....六一

豌豆.....六三

模範栽培

石刀柏	六四
草 莓	六六
甘 藷	六八
里 芋	七〇
馬鈴薯	七二
薯 蕷	七三
胡蘿蔔	七五
牛 蒡	七六
春作甘藍	七八
秋作甘藍	八〇
漬菜類	八一
羅 蔔	八二
茄 子	八四
胡 瓜	八六
南 瓜	八八
越 瓜	八九
冬 瓜	九〇

甜瓜	九二
葱	九三
リーク	九四
薑	九六
欸冬	九七
芝罘白菜貯藏試驗	九八
果樹苗木接穗及插穗配付表	一〇〇

勸業模範場轟島園藝支場報告

第十一號

氣候ト作物

當場ハ京城ヲ去ル東南約二里ニシテ近ク漢江ニ接シタル平野ニ位置スルヲ以テ寒暑乾濕ノ度ハ京城ニ比シ常時多少ノ差アリ殊ニ冬期ニ於テハ寒溫ノ差著シキコト稀ナラス今當場ノ觀測ニ係ル大正六年ヨリ大正十年ニ至ル五個年間ノ平均氣象及各年ニ於ケル作物トノ關係概要ヲ示セハ次ノ如シ(氣溫ハ攝氏ヲ以テ示ス)

月次	項目		平均氣溫	平均最高氣溫	平均最低氣溫	最高氣溫	最低氣溫	平均濕度 (百分率)	平均降水量 (耗)	平均蒸發量 (耗)
	一	二								
一月	(-)	(-)	七.二	(-)	(-)	八.八	(-)	—	〇.四	〇.四
二月	(-)	(-)	二.一	二.九	(-)	一.四	(-)	—	〇.二	〇.四
三月	六.二	(-)	六.二	九.八	(-)	二.三	(-)	—	〇.三	〇.九
四月	一〇.四	一.七	一〇.四	一七.五	三.四	二八.二	(-)	七.二	一.六	四.二
五月	一五.二	二.三	一五.二	二二.六	九.二	二九.一	〇.四	七.五	二.四	四.七
六月	二〇.四	二.七	二〇.四	二七.四	一五.〇	三六.九	七.〇	七.七	三.九	五.一
七月	二四.七	三〇.一	二四.七	三〇.一	二〇.九	三七.三	一三.〇	八.二	八.一	四.四
八月	二五.一	三二.〇	二五.一	三二.〇	二〇.八	三八.〇	一五.六	七.八	六.一	五.一

氣候ト作物

十二月	十一月	十月	九月
(一) 二七	五六	二二三	一九四
二五	一〇七	二〇二	二六三
(一) 八〇	(一) 〇七	五八	一四一
一九一	二二二	二七八	三四三
(一) 二七、七	(一) 一〇、四	(一) 四、一	四三
一	一	七八	八三
〇、四	〇、九	〇、八	三、二
〇、六	一、一	二、七	三、三

備考 一、二、三、十一、十二ノ五個月間ハ一日午前十時一回ノ觀測トシ四、五、六、七、八、九、十ノ七個月ニ於ケル平均氣温及平均濕度ハ午前六時午後二時及午後十時ノ三回最高、最低氣温、降水量、蒸發量ハ午後二時一回ノ觀測トス

平均初霜期 十月九日

最早初霜期 十月六日

平均終霜期 四月十八日

最晚終霜期 四月二十二日

大正六年

果樹類 冬期ノ氣温著シク下降シ其最低ハ零下二十五度ヲ示シタリ如斯ハ稀有ノ猛寒ニアラサルモ一月ヨリ二月ニ亘リ低温持續セシコトハ實ニ未曾有ニシテ之レカタメ地下結氷ハ深サ二尺六寸ニ達シタリ(平年ハ凡一尺五、六寸ナリ)爰ニ於テ耐寒性强カラサル葡萄、桃、李杏類ノ生育ニハ著シキ打撃ヲ與ヘ其被害慘狀ヲ呈セリ而シテ桃、李ハ樹齡六、七年ト十年ニ達セルモノアリシカ其何レモ杖梢ノ多少枯死セサルモノナク中ニハ全身枯死スルモノヲ生シタ

大正七年
五月五日

リ其收穫ニ至ツテハ殆ント皆無ニ終レリ又生存セル枝モ新芽ノ伸長甚不良ニシテ平年ノ二分ノ一ニ過キス葡萄ハ結果枝ノ六七割ハ凍死シ結實スルモノ尠ク伸長モ亦平年ノ三分ノ一ニ達セス其他梨苹果ノ如キ耐寒性强キ種類ニ至ルマテ多少ノ寒傷ヲ認メタリ從ツテ各種共發芽著シク不揃ヲ來セリ如斯被害ハ未タ嘗テ見サル所ナリシカ幸ニ八月ノ雨期後ニ至リテ桃李ヲ除ク外ハ新梢ノ發育良好トナレリ又八九十ノ三個月ニ亘ル氣候ハ高温乾燥ヲ持續シ又濕度ト蒸發量ニ於テモ好狀態ナリシヲ以テ果實ノ登熟ニハ好要素ヲ與ヘ翌年ニ於ケル花芽ノ化生モ亦良好ニシテ梨苹果ハ八月ニ入り伸長セシ新梢ノ腋芽ニ至ル迄花蕾ヲ生スルノ盛況ヲ呈スルニ至レリ病害ハ例年ニ比シ其蔓延尠ク殺菌劑使用ノ如キモ僅ニ二回品種ニヨリテハ一回ニ過キサリキ然レトモ獨リ腐爛病ハ俄然苹果國光ニ著シク蔓延シテ收穫上ニ及ホシタル影響少シトセス而シテ該病ハ洋梨ヲ除ク外ハ前年マテ殆ント現ハレサリシニ俄カニ猖獗ヲ極ムルニ至リシハ畢竟冬期烈寒ノ爲メ皮膚ニ裂傷ヲ生シタルヲ以テ病毒ヲ誘致シタルコトカ最大原因ナリト認ムル所ナリ害蟲ノ發生狀態ハ例年ト大差ナシ

蔬菜類 本年ハ雨期ヲ除ク外氣候概ネ乾燥セシヲ以テ深根類ヲ除ク外ハ其發育上ニ受ケタル影響少カラス殊ニ春作ノ下種期發芽期及移植期タル五六月ノ乾燥ハ一層激シク雜草類ニ至ル迄往々萎凋枯死スルノ狀況ヲ呈セシカハ其發育ヲ害スルコト甚大ニシテ平作ニ達セサルモノ多カリシ

大正七年

果樹類 桃李杏類及葡萄ハ前年ノ寒害ノタメ樹勢頓ニ衰ヘ居リシカ不幸ニシテ本年又重

氣候ト作物

ネテ烈寒ノ襲來アリ其被害慘狀ヲ極ムルニ至レリ。明治四十年植付以來例年好成績ヲ得ツ、アリシ上海水蜜桃及李杏類中兵庫巴且杏ハ太キ枝幹ニ數條ノ裂傷ヲ生シテ殆ント全滅ニ歸シ例令枯死ヲ逃レタル品種ト雖杖梢又ハ花蕾ノ凍死スルモノ尠カラス發芽後ノ生育頗ル不良ナリキ葡萄ハ覆土防寒ヲ行ヒシト雖畦間狹キタメ被土十分ナラサリシヲ以テ枯死スルモノ多ク遂ニ舊株ヲ掘リ取り更新スルノ止ムナキ慘狀ヲ呈スルニ至レリ。苹果梨ハ寒傷少カリシモ苹果ハ腐爛病洋梨ハ同病及炭疽病ノ大害ヲ蒙リタルモノアリ然レトモ洋梨ヲ除ク外ハ發育並ニ結實佳良ナリシ又八月中旬漢江ノ汎濫ヲ蒙リシモ退水後三斗五升式ホルド一液ヲ一回撒注シテ病害ヲ免レタリ唯成熟中ノ苹果、祝種カ僅カニ水勢ノタメ落果流失セシニ過キサリシ而シテ秋期ノ氣象狀態ハ昨年ニモ優リタルヲ以テ登熟作用及花芽ノ着生ニ恰適セリ。病蟲ノ中被害ノ大ナルモノハ洋梨ノ腐爛病ニシテ多ク枯死スルモノアルニ至レリ梨ノ實蜂ハ本年モ發生夥シク時恰モ天候不順ナリシカハ作業意ノ如クナラス品種ニヨリテハ大害ヲ受クルニ至レリ

蔬菜類 當年ハ春期ヨリ初秋ニ至ル氣候概ネ冷濕ナリシカハ概シテ好成績ヲ豫想セシカ
八月中旬ノ洪水ニ際シ一部分浸水セシヲ以テ品種ニヨリテハ著シク減收ヲ見ルニ至レリ然レトモ浸水ヲ逃レタルモノハ頗ル好成績ヲ得タリ
大正八年

果樹類 本年ハ最低極溫度攝氏零下二十六度ニ下降セリト雖幸其期間短カ、リシノミナラス冬期ノ平均氣温ハ平年ニ比シ概ネ高温ヲ持續シ極メテ順調ナリシカ當年ハ開場以來未

曾有ノ旱魃ニシテ蔬菜ハ元ヨリ米作其他ノ作物ニ於テスラ殆ント收穫皆無ノ慘狀ニ陥リタル地方少カラス如何ニ旱害程度ノ激烈ナリシカヲ窺フニ足ルヘシ當場ニ於ケル果樹類ノ影響トシテハ降雨ノ後小數ノ裂果ヲ生シタルニ過キス之レ皮膚粗硬トナリ濕潤ヲ得テ後急ニ發育スルヤ皮膚ノ之レニ伴ハサルニ依レリ又七月ニハ漢江ノ汎濫アリ場内低地ノ一部分ハ三十有餘時間ノ浸水ヲ蒙リシカ果樹ノ生育ニハ何等影響ナク經過極メテ良好ニ進ミツ、アリシカ九月三日ハ土着ノ人ト雖管ヲ見サル暴風ノ襲來アリ之レカタメ當地方ニ於テモ其位置ニヨリテハ落果九割以上ニ達シタルノミナラス樹ハ倒レ又ハ折損スルモノ多ク其被害慘憺タルモノアリキ當場ニ於テハ如斯大害ハ逃レタリト雖三割以上五六割ノ落果ヲ生シ且ツ植付ノ位置ニヨリ葉ハ夥シキ裂傷若クハ脱落ヲ招キシヲ以テ成績上ニ及ホシタル影響少カラス去レトモ元來過産ノ状態ナリシヲ以テ一大天災アリシニ拘ハラス相當ノ結果ヲ奏シタリ而シテ秋期ノ氣候可良ナリシカハ果實ノ色澤肉質風味優良ニシテ翌年ニ於ケル花芽ノ化生モ良好ナリキ病害ハ前述セルカ如ク雨期ヲ除ク外氣候常ニ乾燥ナリシ又苹果並ニ梨ノ腐爛病及梨ノ炭疽病其他大ナル蔓延ヲ認メス然レトモ乾燥強カリシタメ本年ハ殊ニ蚜蟲ノ繁殖猛烈ヲ極メ苹果、梨ノ新葉及幼果ヲ害シ果實ノ皮膚ヲ粗硬ナラシメ又往々煤病ヲ誘致シテ外觀ヲ損シタルノミナラス甚シキハ奇形ヲ呈スルモノヲ生スルニ至レリ之レ皆氣候ノ惡因ニヨリ誘發セル結果ナリトス

蔬菜類 未曾有ノ乾燥ニテ下種スルモ發芽セス灌水ヲ行ヒテ漸ク發芽シタルモノモ忽チ其莖葉ハ萎凋シ殊ニ淺根類ハ殆ント瀕死ノ状態ニ陥リ加フルニ七月ニハ浸水ノ厄ニ遇ヒシ

カハ各種ヲ通シテ不成績ニ終レリ

大正九年

果樹類 冬期ハ開場以來未曾有ノ猛寒ニシテ其最低極溫度ハ攝氏零下二十八度二分ヲ示シ之レヲ大正二年ノ猛寒ニ比スルモ尙二分低下シ加フルニ嘗テ見サル積雪ハ枝梢ニ厚ク氷結シテ十數日間融解セサル等異變ヲ呈セシカハ果樹類ニ及ホシタル損害ハ驚クヘキ甚大ニシテ大正七八年新ニ植付タル桃櫻桃及明治四十年ニ植付タル李杏類ノ花蕾枝梢ノ凍死ハ元ヨリ枝幹モ完ク枯死スルモノ多ク又前年ノ烈寒ニ於テモ僅ニ寒傷ヲ認ルニ過キサリシ和洋梨ハ往々枝幹ニ裂傷ヲ生シ深ク木質部ヲ犯シ之レカタメ枝幹ノ枯死スルモノ多ク花蕾ノ如キハ品種ニヨリテハ其全部凍死スルニ至レリ就中前年マテ少シノ異狀タニナク好成績ヲ舉ケツ、アリシ十四年生世界一及晚三吉ノ如キハ七八割ハ枯死シ偶々發芽セシモノモ到底恢復ノ見込ナキ慘狀ヲ呈スルニ至レリ苹果ノ多クハ花蕾一部ノ凍死ニ過キサリシカ品種ニヨリ枝幹ニ多少裂傷ヲ生シ之レカタメ一層腐爛病ヲ誘發スルニ至リ大害ヲ蒙レリ如斯寒害ノ現象ハ土着人ト雖未知ニ屬スト云フ而シテ此傷害ハ當年ニ止マラス將來ニ及ホス影響頗ル大ナルモノアリ察スルニ氣候カ低下セルノミナレハ如斯慘害ハ免レタルナランモ積雪枝幹ニ氷結シテ皮部ヲ裂傷セシメ又木質ト皮部ヲ分離シタルカ如キハ慘害ノ一大原因ナルヘシ又五月二十七日ニハ日没前約二十分間ニ亘リ大豆粒大ノ猛烈ナル降雹アリ之レカタメ拇指大ノ幼果ハ各種共ニ全園殆ント無傷果ナキ慘狀ヲ蒙レリ而シテ其後負傷ノ甚シキモノハ落果シ又ハ摘果ヲ行ヒシカ殘留果ト雖悉ク負傷果ナラサルハナシ次テ七月上旬及八月月上旬ノ

二回ニ亘リ古老モ知ラサル大水害アリ低地ハ水深一丈餘ニ達シ入水ヨリ退水迄六十有餘時間ニ及ヘリ然レトモ果樹類ノ直接蒙リタル損害ハ極メテ輕微ナリシ蟲害ト天候トノ關係ハ殆ント記スヘキコトナキモ獨リ腐爛病ノ發生猛烈ナリシ之レ寒傷ノタメ其繁殖力ヲ一層誘致セルニ依レリ

蔬菜類 正ニ成熟期ニ入ラントスル草莓ハ降雹ノタメ著シク傷害ヲ受ケテ腐敗スルモノ夥シク又他ノ蔬菜ニシテ苗床ヨリ圃場ニ移植シ若クハ直播シテ發芽セシモノハ枝葉ヲ破傷シ或ハ折損スル等慘害ヲ蒙レリ然レトモ當時ハ尙發育ノ初期ナリシヲ以テ傷害甚シキモノハ補植補播ヲ行ヒ專ラ保護手入ニ努メシカハ六月下旬ニハ相當勢力ヲ恢復スルニ至リシ折柄二回ニ亘ル水害ノタメ全滅ニ歸シタルモノ又ハ大部ノ腐敗ヲ讓シタルモノ多ク遂ニ成績ヲ擧クルニ至ラス又秋作蔬菜類モ第一回ニ蒔付タルモノハ第二回ノ浸水ノタメ腐敗セシヲ以テ再播ヲ行ヒシカ幸ニ晩秋ノ氣候高温ヲ持續セシカハ時期後レタルニモ拘ハラヌ葉菜類ハ好成绩ヲ得タリ

大正十年

果樹類 冬期ハ極メテ温暖ニシテ天候順潮ナリシモ前年ノ寒傷ヲ受ケタルモノハ樹勢恢復スルニ至ラス枝梢ノ伸長ハ例年ニ比シ著シク劣勢ヲ示シ之レカタメ苹果ノ腐爛病ハ甚シク増大シ十年以上ノ大樹ニシテ往々枯死スルモノヲ生スルニ至レリ

發芽後六月ニ至ル氣候ハ極メテ佳良ニシテ又病蟲害ノ發生モ極メテ少カリシ七月ヨリ八月上旬ニ亘リテハ例年ニ比シ降雨曇天續キシヲ以テ果實ノ生育ハ頗ル良好ニシテ過大ニ失ス

ル狀況ヲ呈セリ然レトモ皮膚ハ却ツテ軟弱ナルヲ逃レサリシカ八月中旬ニ入り俄然快晴ヲ催シ氣温高ク日射強烈トナリシカハ枝端ノ陽面ニ向ヒタル果實ハ數日ニシテ日射病ニ侵サレ不測ノ大害ヲ蒙レリ然レトモ健全ナル樹ノ結實狀態ハ極メテ良好ニシテ又秋期ノ氣温意外ニ高温ヲ持續セシカハ登熟作用充分ニシテ最晩生種ニ至ル迄着色鮮麗風味又佳良ナルモノヲ穫タリ

蔬菜類 春播蔬菜ハ播種期ニ際シ潤雨アリシヲ以テ種子ノ發芽又ハ苗ノ活着概ネ良好ニシテ頗ル順潮ナリシカ六月上旬ノ乾燥ニ多少莖葉ノ萎凋ヲ來サ、ルモノナク其發育ヲ阻止セラレタリ特ニ葉菜類及淺根類ハ被害一層大ナリシ其後七八月ノ雨期ニハ漸ク草勢恢復シ一般ニ相當ノ成績ヲ舉クルコトヲ得タリ 秋作蔬菜類ハ發芽當時氣候陰濕ナリシタメ徒長ニ失シタル折柄八月中旬ニ俄然高温強射ヲ受ケタルヲ以テ幼菜ノ萎凋スルモノ多ク芝罘白菜ノ如キハ二割五分以上ノ枯損ヲ呈スルニ至レリ然レトモ例年被害ヲ及ホス蚜蟲ノ發生ハ極メテ僅少ナリシヲ以テ概シテ優良ナル成績ヲ舉ゲ得タリ

肥料

肥料ノ使用法ニ就キテハ前號既ニ述ヘタルヲ以テ爰ニハ當場ニ於ケル施肥量ノ標準ヲ示サシ 施肥量ハ土地ノ肥瘠及樹ノ生育狀態ニ依リ異ナルヲ以テ毎年一率ヲ以テ定量スルコト

能ハス又土地ニ依リテハ石灰分ノ缺乏スルコトアルヲ以テ之レヲ補フコト必要ナリ石灰分ハ植物體ニハ何レノ部分ニモ缺クヘカラサル要素ナルモ殊ニ葉ノ組成成分トシテ最モ重要ナルモノナリ然レトモ土中ニハ他ノ成分ニ比シ比較的少量ニ含有スルヲ以テ用ヒサル場合多シトス石灰分ノ缺乏スルトキハ他ノ成分ヲ充分施用スルニ拘ハラヌ葉色淡ク又葉肉モ薄キヲ常トス斯ル場合ニ夏期石灰分ヲ適當ニ施ストキハ日ナラスシテ容易ニ之レヲ恢復スルニ至ルヘシ

萃 果

原料 及價格	年次									
	一年	二年	三年	四年	五年	六年	七年	八年	九年	十年
人糞尿	五〇〇	五〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	三〇〇〇	四〇〇〇	四五〇〇	八〇〇〇	九〇〇〇	九〇〇〇
大豆粕	五〇	六〇	五〇	七〇	一五〇	一五〇	一五〇	一七〇	五〇	五〇
乾魚									一〇〇	一〇〇
苳粕			五〇	六〇	二〇	一一〇	一五〇	一七〇	一七〇	一七〇
米糠			二〇	三〇	六〇	一〇〇	四〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇
骨粉							一五〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇
過磷酸石灰	二〇	五〇	五〇	七〇	一五〇	二五〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇

肥料

九

一反步價格
(七十五本植)

一八八二五
二六八五〇
四一四,〇〇
五二四二五
一一九六二五
二二九一七五
三八五二七五
四四三七七五
五二一三〇〇
五二一三〇〇

葡萄

肥料及價格	年次									
	一年	二年	三年	四年	五年	六年	七年	八年	九年	十年
人糞尿	五〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇
大豆粕	五〇	六〇	六〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	四〇	四〇
乾魚									三〇	三〇
荏粕			五〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	二〇〇
米糠			二〇	三〇	三〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
過磷酸石灰	二〇	五〇	五〇	六〇	六〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	九五
木灰	三〇	一〇〇	一五〇	二五〇	二五〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四二〇	四二五
堆肥	五〇〇									
價格	二五二	四三三	五七八	七〇三	七〇三	八五二	八五二	八五二	九六二	一一,五三
一反步價格 (二百本植)	七二〇〇	八六六,〇〇	一二五六,〇〇	一四〇六,〇〇	一四〇六,〇〇	一七〇四,〇〇	一七〇四,〇〇	一七〇四,〇〇	一九二四,〇〇	二三〇六,〇〇

肥料

桃李杏類

肥料及價格	年次									
	一年	二年	三年	四年	五年	六年	七年	八年	九年	十年
人糞尿	五〇〇 <small>匁</small>	五〇〇 <small>匁</small>	一,〇〇〇 <small>匁</small>	一,〇〇〇 <small>匁</small>	三,〇〇〇 <small>匁</small>	六,〇〇〇 <small>匁</small>				
大豆粕	五〇	六〇	五〇	七〇	一五〇	四五〇	四五〇	四五〇	二一〇	四〇〇
乾魚									二〇〇	四〇〇
荏粕			六〇	六〇	一二〇	三六〇	三六〇	三六〇	三六〇	九八〇
米糠			二〇	三〇	六〇	一八〇	一八〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇
骨粉								五〇	五〇	五〇
過磷酸石灰	二〇	五〇	五〇	七〇	一五〇	四五〇	四五〇	四五〇	四四〇	四四〇
木灰	三〇	一〇〇	一五〇	三五〇	五〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	三,五〇〇	三,三〇〇	三,一六五
價格	錢 二五二	錢 二五八	錢 五五二	錢 七二四	錢 一五九四	錢 四四九九	錢 四四九九	錢 五〇四三	錢 五六〇七	錢 六六六三
一反步價格 (七十五本植)	一八八三五	一九三五〇	四一四,〇〇	五四三,〇〇	一一九五五〇	三三四,二五〇	三三四,二五〇	三七八,二二五	四二〇,五二五	四九九七,二五

備考 一、肥料相場ハ毎年高低アルヲ以テ大正十年ノ相場ニヨリ各年ヲ計算セリ
 二、施肥期ニ於テ處用ノ原料ヲ得サルトキハ他ノ原料ヲ代用スルコトアリ例之右表

中葡萄、桃李杏類十年生欄ニ人糞尿ヲ省キ、苳粕若クハ大豆粕ヲ増用セシカ如シ
 三、十年後ハ株間廣キ特別ノ場合ヲ除ク外一本ニ對スル施肥量ニ大差ナキヲ以テ記
 載セス

果 樹 類

種 類 比 較

本試驗ノ目的ハ各種ノ優劣ヲ比較セントスルニアリ

苹 果 (方二間植)

作付面積 二反歩

整 枝 法 立木造(圓錐形)

供試品種及摘要

柳 玉	種 類 名	苗ノ 産地	本數	植 付 年月日	苗木 年齢	試 作 年 數	地上一尺 ニ於ケル 幹ノ平均 周圍	病害對樹 ノ強弱	開花期	開葉期	終 落 期 葉
	北海道		五本	明治四〇、五一、一六	一 年	自大正六年 至大正十年	二、〇四 尺	最 強	自 四月 至 五月二日	四 月 一七 日	二 月 二 四 日

紅玉	倭錦	鳳凰卵	紅綾	佛國二十二號	白龍	祝魁	紅魁	旭魁	國光	レディアップル
北海道	同	岩手	東京	同	同	當場	同	同	北海道	米國カリフォルニア
五	五	五	五	五	五	五	五	三	五	ニ
四〇、五、一六	同	同	四二、四、二五	同	同	同	同	同	四〇、五、一六	四三、四、二三
一	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
至自大正十年	同	同	同	同	同	同	同	同	至自大正七年	至自大正七年
一、七九	二〇一	二二五	一八六	一九七	一八六	一七六	二〇七	二一八	一九二	一六〇
強	最強	同	同	強	稍強	強	最強	強	最強	強
至自 五、一、三	至自 五、二、〇	至自 五、二、六	至自 五、二、六	至自 五、二、二	至自 五、二、三	至自 五、二、二	至自 五、四、三	至自 五、四、三	至自 五、四、七	至自 五、四、九
四二〇	四一〇	四一八	四一〇	四一三	四一三	四一〇	四一九	四二二	四一九	四二二
一一、一七	一一、一五	一一、一六	一一、一一	一一、一八	一一、一七	一一、一三	一一、一四	一一、一三	一一、一四	一一、一三

施肥期 自四月上旬至四月中旬

剪枝及整枝 冬期前枝ハ三月上旬ヨリ四月上旬ニ亘リテ之ヲ行ヒ夏期剪枝ハ六月下旬ヨリ七月上旬ニ亘リ之ヲ行ヒタリ

摘果 五月中旬ヨリ六月下旬ニ亘リ二回乃至三回ニ分チテ行ヘリ

病蟲害

大正六年 葉捲蟲、果蠹蟲、木蠹蟲、蚜蟲、浮塵子、はむし、こむらさき蛾、サンノーゼ介殼蟲等ナリ其

ノ防除法ハ葉捲蟲及果蠹蟲ハ手ニテ捕殺シ「こむらさき蛾」ハ打物ニテ打チ殺シ木蠹蟲ハ除蟲菊酒精浸出原液水二倍ニ稀釋セルアルコール一升ニ除蟲菊粉二十五匁ヲ孔中ヨリ注入シ又蚜蟲浮塵子「はむし」等ハ同液ノ十五倍以上三十倍ノ稀釋液ノ撒注ニヨリ介殼蟲ハ石灰硫黃合劑ノ「ボーメー」四度半液ヲ春期發芽前ニ撒注シ之レカ撲滅ヲナセリ又腐爛病褐斑病等ノ發生アリシモ時期ヲ失セス三斗五升式ボルドウ液又ハ石灰乳清水一斗生石灰四百匁食鹽一合乃至二合ヲ塗抹シテ防除ニ努メタルヲ以テ被害少キヲ得タリ

大正七年 蟲害ハ前年ト大差ナシ只日射病ニ侵サレ易キ佛國二十二號及倭錦ノ兩種ハ陽面ノ枝及果實ニ三斗五升式ボルドー液ヲ潤澤ニ撒注シ其ノ被害ノ輕減ヲ計リタリ

大正八年 殊ニ盲椿象及蚜蟲ノ發生盛ンニシテ蚜蟲カ幼果ニ與ヘタル被害ハ最モ甚シクシテ果實ノ皮膚粗硬トナリ外觀ヲ著シク損セリ之カ驅除ハ前年ニ準ス又各品種何レモ腐爛病ノ發生特ニ激甚ニシテ枝幹ノ枯死セルモノ少ナカラス之カ防除法トシテ枯枝ハ除去シ又部分的ニ侵サレタル枝幹ハ其ノ被害部ヲ削リ取り石灰乳ノ塗抹ニ努メタリ又褐斑病ハ夏期降雨尠ク且ツ乾燥甚シカリシヲ以テ殆ント認メサリシカ秋期ニ入りテヨリ屢降雨アリ加フルニ九月三日ノ暴風雨ニ遭ヒテヨリ其ノ後俄ニ該病ノ發生蔓延ノ徵ヲ認ムルニ至リシヲ以テ直チニ之カ防除法ヲ講シタリシカハ被害ヲ免レタリ

大正九年 害蟲ノ種類ハ前年ト異ナラサルモ其ノ被害ノ狀況ハ前年ニ比シ輕少ナリ然ルニ本年ハ零下二十八度二分ノ猛寒ニ襲ハレ又積雪結氷ノタメ樹ノ傷害甚タシキヲ以テ其ノ虛ニ乘シ病蟲ノ侵入ヲ慮リ其ノ豫防トシテ開葉前亞砒酸曹達加用二斗式ボルドー液ヲ撒注シ

タルモ腐爛病ノ發生ハ益甚タシク其ノ防除藥品ノ効果殆ント認メサリキ又局部ヲ削リ食鹽加用石灰乳ヲ塗抹セルモノハ効果最モ著大ナリ褐斑病ハ五月下旬及六月下旬ノ二回ニ三斗五升式ボルドー液ヲ撒注シ豫防ヲ行ヒタルモ七月上旬及八月下旬ニ於ケル大出水ノタメ退水後浸水セル部分ハ該病ノ發生ヲ怖レ九月上旬三斗五升式ボルドー液ヲ撒注シテ慘害ヲ免ルヲ得タリ而テ各種類中紅玉種ハ最モ該病ニ抵抗力弱シ

大正十年 蟲害ハ前年ト大差ナシ病害モ前年ト大差ナシト雖モ八月中旬ニ亞砒酸曹達加用三斗五升式ボルドー液ヲ撒注シテ一ハ褐斑病ヲ防遏シ又幼蟲類ノ驅殺ニ努メタリシカ幸ニ無難ナルヲ得タリ又腐爛病モ極力防除ニ努メタリシカ前年罹リタルモノ、外更ニ發生スルモノハ比較的少カリシ之レ冬期非常ニ暖氣ナリシニ因ルナラン

生育及結實狀況

大正六年 寒傷後又稀有ノ乾燥ニ遭ヒシモ其後ノ氣候順調ナリシヲ以テ平年作ノ成績ヲ舉クルヲ得タリ就中紅綾鳳凰卵、紅魁及ヒ倭錦等ハ豐産ナリキ

大正七年 前年ニ比シ成績良好ニシテ豐作ヲ得タリ就中レダイアツプル、紅魁、倭錦及柳玉等ハ殊ニ豐産ナルヲ得タリ

大正八年 九月三日ハ開場以來未曾有ノ烈風ニシテ枝稍ヲ挫折シ葉ハ脱落シ殘葉ハ殆ント裂傷ヲ蒙ムラサルモノナク其ノ色ヲ變スルニ至リ生理上少カラス障碍ヲ受ケ果實ハ二三割ヨリ六割内外ハ落下シタルヲ以テ優良ナル成績ヲ舉クルコト能ハス然レトモ紅玉、倭錦、紅綾佛國二十二號ハ相當ノ成績ヲ舉ケ得タリ

大正九年 冬期ニ於ケル猛寒ハ裂傷ヲ生シ腐爛病ノ蔓延ヲ一層助勢セシノミナラス紅玉祝等ハ花蕾ノ凍死セルモノ少カラス加フルニ五月二十七日ニハ降雹ノ慘害ヲ受ケ殆ント完全果ヲ認メス其後負傷ノ甚シキモノハ落果シ次テ七月上旬及八月上旬ノ二回ニ水深一丈餘ニ亘タル未曾有ノ水害アリシモ水害ノタメニハ多少ノ褐斑病侵サレタルニ過キス而テ寒害ト雹害ハ著シク其ノ成績ニ影響シ僅ニ柳玉、倭錦、紅魁ノ三種ヲ除クノ外ハ凶作ニ陥リタリ

大正十年 腐爛病ノ蔓延前年ニ比スレハ稍少ク其ノ成績ハ一般ニ良好ナルヲ得タリ又當年ハ晚秋ニ至ル迄暖氣ヲ持續シ充分登熟セルヲ以テ最晩生種ト雖モ着色鮮麗風味肉質共ニ佳良ナルヲ得タリ

收穫及特性

種類名	早中晩	貯藏適否	植付樹齡	收穫期	一反歩改算收穫顆數					平均重量	品質	形狀	色別	大栽培適否
					大正六年	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年					
柳玉	晚	適	十五年	自九月八日	八四〇〇個	二五二七五個	二四〇〇〇個	二二二七五個	七七八五個	一三、三三七個	良	圓	紅黃地	適
紅玉	同	同	同	自九月四日	二、二五〇	四二七五	二、二五〇	五、一七五	六五〇	二、九二〇	最良	同	深紅	最適
倭錦	同	最適	同	自九月六日	一、一〇五	二四七五〇	一三八〇〇	一六五〇〇	二七四六五	一八七〇八	良	長圓	紅黃地	同
鳳凰	同	同	同	自九月六日	一、三二五	三、三二五	三、三七五	二、七〇〇	一三、三六九	七、二七九	最良	長圓	紅黃地	同
紅鳳	同	同	同	自九月五日	一、六五七五	一五〇〇〇	一、七七五	一、一四〇〇	一九五三〇	一、六〇五六	良	豐圓	深紅	適
佛國二十二號	同	同	同	自九月七日	九八二五	一〇七二五	九四五〇	五、〇二五	一〇九九五	九、二〇四	同	橢圓	青白地 =淡紅	同

果樹類

白龍	祝	紅魁	旭	國光	レダイアアップル
同	中	早	中	晚	同
最適	否	同	同	最適	同
至自 二、六五	至自 九、八一	至自 七、八二	至自 八、八元	至自 二、三五	至自 九、三二
二、一〇〇	一、六五〇	二、二九七五	二、一〇〇	九〇〇	—
二、〇〇〇	一、七、三五〇	三、五、〇〇〇	一、一四〇	九、八三五	四、四〇〇
三、八二五	三、四、五〇〇	一、八七五	三、五二五	—	九、八二五
六、六七五	九、〇〇〇	一、五、〇〇〇	五、二五〇	—	四、四二五
五、〇四〇	一、七、一四五	六、八五五	一、〇七〇〇	—	五、五八八
七、七二八	九、六九九	一、四、三六一	四、五四三	五、三六三	一、五、三二〇
四、最適	三七、良	三三、否	四一、良	三三、最良	一三、良
不正 卵圓	長圓	扁圓	扁圓	圓	扁圓
青黃地 =紅霞	綠黃地 =紅	淡黃地 =紅	淡黃地 =紅	綠黃地 =赤	綠黃地 =紅霞
最適	否	同	適	最適	同

備考 右表中「」ハ枯死又ハ掘取リタルモノナリ、以下同シ

因ニ明治四十年植付ケタル苗木ハ内地ヨリ購入セルモノニシテ臺木ノ不良ナルモノアリ殊ニ國光、紅玉、柳玉ハ何レモ萃果實生臺木ナルヲ以テ生育ハ驚クヘク佳良ナルモ結實ハ極メテ不良ニシテ他ト比較困難ナルヲ以テ讀者ハ模範栽培ノ成績ヲ參照セラレタシ又國光ハ大正七年後ハ腐爛病ノ被害甚タシク之ヲ除去セリ

梨 (方二間植)

作付面積 四反七畝十歩
整枝法 立木造(圓錐形)

果樹類

アイダホ	ラ、フランス	デエンネ、ダレンコン	スーピット、デ バビエー	イスター、ヴール	ヴール、チツフェル	ルイボンヌ、ド、 ゼルシー	ネクブル、ミューリー	フレミッシュ、 ビューテイ	オノダガー	ビーバリー	ヴール、カピオモン	デエンネ、ド、コミス	セツケル	バスクラサン	スーベニール、 ジュールクワンドン	シードロンデ、カロム
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	東京
四	一	四	五	三	五	二	四	五	五	四	三	四	四	五	三	二
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	大正六年	同	自大正六年 至大正八年	同	同	同	自大正六年 至大正八年	自大正六年 至大正十年	大正六年	同	自大正六年 至大正七年	同	大正六年	自大正六年 至大正八年	大正六年	同
一、四四	一、三八	一、八四	一、八〇	一、九五	一、六〇	一、五七	一、五〇	二、二六	一、四六	一、〇六	一、三五	一、七三	一、三八	一、八九	一、四七	一、三四
強	稍弱	強	稍強	強	同	稍弱	強	同	同	稍弱	強	稍弱	同	強	稍弱	同
至自 五、二	至自 五、四	至自 五、二	至自 五、二	至自 五、二	至自 五、二	至自 五、二	至自 五、二	至自 五、二	至自 五、二	至自 五、二	至自 五、二	至自 五、二	至自 五、二	至自 五、二	至自 五、二	至自 五、二
四、二七	四、二九	四、二八	四、二五	四、二六	四、二五	四、二九	四、二四	四、二五	五、一	五、三	四、二六	四、二五	四、三〇	四、二五	四、三〇	四、二九
一一、五	一一、三	一一、〇	一一、八	一一、三	一一、三	一一、四	一一、五	一一、三	一一、五	一一、〇	一一、三	一一、九	一一、〇	一一、六	一一、六	一一、五

施肥期 自四月上旬至四月中旬
 整枝剪定期 冬期作業ハ三月上旬ヨリ四月初旬ニ亘リ夏期作業ハ六七月ノ頃ニ行ヘリト

ロスネー	ル、コント	ウキンター、 バートレット	ローレンス	クラップス、 フェボリット	グロー、モーツー	ヴールゲリス、 デーヴル	ヴ#カ、オプ、 ウ#ンクフ#ルド	ダナス、ホーバー	パウンド	ヴール、チール	ヴール、ダンジョー	ブラツド、グッド	ジュセス、 ダングレーム	ナボレオン、 サヴ#ニヨン
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
五	五	三	四	五	四	三	五	二	三	五	四	二	二	四
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
自大正六年	自大正六年	自大正六年	自大正六年	自大正六年	自大正六年	自大正六年	自大正六年	自大正六年	自大正六年	自大正六年	自大正六年	自大正六年	自大正六年	自大正八年
一、三六	一、九四	一、三〇	一、六六	一、六九	一、八四	〇、九三	一、八六	〇、九四	一、六三	一、八七	一、二二	一、三三	〇、九七	一、一〇
強	最強	強	同	同	同	稍弱	強	稍弱	強	同	稍弱	同	強	同
至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自
五、四、元	五、四、二	五、四、〇	五、四、二	五、四、二	五、四、二	五、四、二	五、四、二	五、四、二	五、四、二	五、四、二	五、四、二	五、四、二	五、四、二	五、四、二
四、二五	四、二二	四、二五	四、二五	四、二五	四、二五	四、二五	四、二五	四、二五	四、二五	四、二五	四、二五	四、二五	四、二五	四、二六
一一、〇	一一、四	一一、九	一一、八	一一、六	一一、五	一一、〇	一一、八	一一、三	一一、三	一一、五	一一、八	一一、五	一一、九	一一、五

雖八月上旬ニ至ル迄時々冗枝ノ剪去ヲ行フコトアリ

摘果 六月上旬ヨリ七月中旬ニ亘リ三回ノ摘果ヲ行ヒツ、蟲害果ヲ除キ其後ト雖時期ヲ撰ハス被害品ヲ摘去シ徹底的ニ驅除ヲ行ヘリ

病蟲害

大正六年 害蟲ノ主ナルモノハ果蠹蟲、盲椿象、葉蜂、實蜂、葉捲蟲、象鼻蟲等ニシテ就中實蜂ハ當年初メテ夥シク發生シ其被害慘狀ヲ呈セリ該蟲ハ梨ノ開花期中ニ成蟲飛來シ多クハ萼片又ハ萼基ノ表皮下ニ産卵器ヲ挿入シテ産卵シ數日ニシテ孵化シタル幼蟲ハ稚果ニ喰入シ漸次他果ニ移動スルヲ以テ其害甚シ之レヲ驅除スルニハ被害果ヲ摘採シテ地中深ク埋メ又ハ水中ニ投入シ或ハ燒棄シタリ而シテ該蟲ノ活動期間ハ僅ニ十數日内外ナルヲ以テ其驅除作業ハ迅速ナラサルヘカラス若シ發生後數日間驅除ヲ怠ルコトアラシカ果實ヲ全滅セシムルコトアリ實ニ戰慄スヘキ害蟲ナリトス其他ノ害蟲ニ對シテハ捕殺又ハ除蟲菊酒精浸出原液ノ十五倍以上六、七十倍液ニ石鹼少許加ヘタルモノヲ撒注シテ驅除ヲ行ヘリ

病害ハ洋梨ノ炭疽病及腐爛病ニシテ烈寒ノ爲メ裂傷ヲ生シタルモノハ猛烈ニ猖獗ヲ來シ其被害慘狀ヲ呈セリ而シテ一旦犯サレタルモノハ其局部ヲ削リ食鹽加用石灰乳水一斗生石灰四百目食鹽一合五勺乃至二合ヲ塗抹シ防除ニ努メ又被害ノ甚シキモノハ他ニ傳染ノ怖アルヲ以テ根部ヨリ掘リ取り燒却セリ其他ハ和梨ニ多少ノ赤星病發生セルニ過キス

大正七年 昨年ニ比シ實蜂ノ發生多ク全結果數ノ五、六割ハ損害ヲ蒙レリ。其他ハ前年ニ大差ナシ病害ハ五月下旬黒斑病ノ徵候ヲ認メタルヲ以テ三斗式ボルドー液ヲ撒注セシカ十

分防止スルヲ得タリ又寒傷ヨリ其端ヲ發シタル腐爛病ノ猖獗ハ益々甚シク慘害ヲ呈スルニ至レリ而シテ之カ防除法ハ前年ト異ナラス

大正八年 當年初メテ太白早生赤龍ノ兩種ニ輪紋病ノ發生アリシカ太白種ニ對シ之カ防除トシテ三斗式ボルドー液ヲ撒注セシカ其効果極メテ少カリシ其他ノ病蟲ノ種類ト被害及防除法ハ前年ト大差ナシ

大正九年 當年ハ寒害ノタメ結實小數ナリシヲ以テ各種害蟲カ之レニ集合シ其被害歩合ハ例年ノ比ニ非ス殊ニ梨姬果蠹蟲ノ晚生種ニ及ホシタル被害一層大ナリキ去レトモ被害果ハ悉ク摘去シ徹底的ニ驅除ヲナセリ病害ノ主ナルモノハ輪紋病ニシテ太白早生赤龍及明月ノ三種ハ甚シク侵サレタリ前年同様藥液ノ撒注ヲ行ヒシカ始ント効果ナカリシ

大正十年 介殼蟲多少發生セルヲ以テ發芽前石灰硫黃合劑「ボーマー」比重四度半内外ヲ撒注シ其他ハ殆ント前年同様ナリ又害蟲殊ニ恐ルヘキ果蠹蟲ニ對シテハ根本的防除ヲ行ヒツ、アルヲ以テ創業以來未タ嘗テ袋掛ケヲ行ヒタルコトナシ
生育及結實狀況

大正六年 腐爛病ニ抵抗力強キ「フレミツシユ、ビュートー」「ロスネー」「ローレンス」「ホワイトデエンネ」「ザールヂツフェル」「グロ、モートー」「ダキカーオブ、ウキンクフェルド」「ダール、ヂール」及日本梨ハ生育佳良ナルノミナラス秋期ノ氣候乾燥ナリシニヨリ登熟及花芽ノ化生良好ニシテ相當ノ成績ヲ得タリト雖其他ノ品種ハ炭疽病並ニ腐爛病ニ犯サレ生育結實共ニ不成績ニ終レリ

大正七年 前年ト大差ナシ

大正八年 九月稀有ノ強風ニ遭ヒ品種ト熟度ニ依リ三割以上五、六割ノ落果ヲ來セルニ拘ハラス和梨ハ相當ノ成績ヲ擧ケ得タリ又洋梨ハ腐爛病ノ被害益々甚シク夫レカタメ相當ノ成績ヲ擧ケタルモノハ「ホワイト、デエンネ」「イスター、ヴール」「ロスネー」「ローレンス」「クラップス、フェボリット」「ヴール、チール」「ブロードグッド」「ジュセス、ダングレーム」等ニシテ「デエンネ、ダレンコン」外十餘種ハ最早防除ノ効果ナキヲ認メ之レヲ伐採セリ

大正九年 冬期ハ創業以來初メテノ烈寒ニシテ加フルニ枝幹ノ積雪ハ氷結シテ十數日間融解セサリシ等ヲ以テ苹果ニ比シ耐寒性弱キ和洋梨共ニ花蕾殆ント枯死スルノ状態トナリ又枝幹ハ各品種多少ノ裂傷ヲ生セサル者ナシ殊ニ洋梨ハ一層大害ヲ受ケ恢復ノ見込ナキモノ多數ニ上レリ之等ハ成績表ヨリ除去スルニ至レリ又和梨ニシテ前年迄盛ニ結實シツ、アリシ晩三吉及世界一ノ兩種ハ大部枯死シ偶々發芽セシモノモ瀕死ノ慘害ヲ蒙レリ就中比較的耐寒力ノ強カリシハ泰平、太白、明月、早生赤龍等ナリシカ此等ノ品種ト雖花蕾ノ生存セルモノハ極メテ少數ニシテ僅ニ泰平ノ平均一樹收果百十五個太白百四個ヲ最良トセルニ過キス

大正十年 前年ノ寒傷甚シキモノハ其勢力ヲ恢復スルニ至ラス漸次枝梢ノ枯死スルモノヲ生シ樹ハ著シク不正形トナリテ結實面積ヲ減スルニ至レリ而シテ昨年比較的寒傷ノ輕カリシ太白ハ平均一樹收果二百二十八個早生赤龍ハ二百八十七個明月ハ百七十九個泰平ハ百五十五個而カモ大果ヲ收メ好成绩ヲ現ハシタル外ハ不成績ニ終レリ

收穫及特性

種 類 名	早中 貯藏 適否 植付 齡	收穫期	一反步改算收穫顆數					平均 重量 顆	色別	形狀	品質
			大正六年	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年				
長十郎	中否	自九月四日 至九月十四日	一二七六五	一六六五〇	一三三五〇	一〇七五	三四五〇	五三	淡黃正圓	稍良	
今村	晚最適	自九月一 至九月十一	一〇八〇〇	一二〇七五	一八三三五	一〇七五	四二七五	六五	黃褐	良	
泰平	中稍適	自八月三 至八月十三	一五九七五	九七五〇	一八六七五	八六二五	一一六二五	四三	綠褐	同	
會津	最晚最適	自九月一 至九月十一	一〇四二五	九四五〇	九五二五	七五〇	二七七五	五九	灰綠	同	
世界	一晚適	自九月三 至九月十三	七〇五〇	六〇七五	七五七五	七五〇	六九〇〇	四	褐黃扁圓	良	
早生赤龍	同	自九月二 至九月十二	一四三五〇	一四八五〇	二四四五〇	三三〇〇	一四〇二五	五二	赤黃	同	
明月	同稍適	自九月二 至九月十二	四二七五	一四〇二五	一〇二七五	五二七五	一三四二五	六九	淡黃褐	最良	
太白	中否	自九月八 至九月十八	一三二七五	一五三七五	一五二五〇	七八〇〇	一七八五〇	五三	白黃	同	
晚三	晚最適	自九月六 至九月十六	六〇〇〇	二一〇二五	一九二七五	四八〇〇	二二一〇〇	七四	褐黃	同	
晚巾	同	自九月九 至九月十九	一〇三五〇	八七七五	七五七五	四八〇〇	八〇二五	七九	同	同	
獨逸	早否	自九月一 至九月十一	一〇八七五	七六五〇	七六五〇	四八〇〇	八〇二五	五七	淡黃	同	
バートレット	中	自八月三 至八月十三	五八五〇	二九二五	九七五	九七五	三二五〇	五	淡黃 紅影	同	
ホワイト、ヂェンネ	同	自九月一 至九月十一	一二〇〇〇	一三六五〇	九六七五	九〇〇	八九二五	三五	淡黃	最良	
ウルバニスト	同	自九月三 至九月十三	六〇〇	六〇〇	三七五	九〇〇	五二五	四六	青黃	同	

果樹類

ア イ ダ ホ	ラ、フ ラ ン ス	ヂェンネ、ダレンコン	スーゼット、デ、パビエー	イスター、ヴール	ヴール、チッフェル	ルイボンヌド、ゼルシー	ネクアル、ミューリー	フレミツシユ、ピユテー	オノングガー	ビーバリー	ヴール、カピオモン	ヂェンネド、コムス	セツケル	バスクラサン	スーベニールジュール、クワンドン	シードロンデ、カロム
同	晩	同	同	同	最早	晩	同	中	晩	最晩	中	同	同	晩	同	中
稍適	同	適	同	同	否	適	否	同	稍適	適	稍適	否	同	適	同	否
年十三	年十一	年十三	年十三	同	同	年十二	年十三	年十五	年十一	同	年十二	同	年十一	年十三	年十一	同
至自 九、二〇	九、三〇	一〇、一五	至自 九、二八 一〇、一五	至自 一〇、一八 一〇、二八	至自 七、二二 七、二七	九、一六	至自 九、一六 九、二五	至自 九、一三 九、二五	九、三〇	一〇、一八	至自 九、二六 九、三三	至自 九、三〇 一〇、一	九、三〇	至自 一〇、一八 一〇、二八	一〇、一八	九、三〇
二、二七五	五、二五	二、二五〇	一、八七五	二、二七五	七、八七五	七、五〇	五、二五	三、六〇〇	二、二五	一、二二五	二、二五〇	六〇	二、二五〇	五、二五〇	六〇〇	一、二七五
三七五	／	／	一、三五〇	三、三七五	六、一五〇	／	二、一〇〇	五、四七五	／	／	四、五〇	三、〇〇	三、五二五	／	／	／
四五〇	／	／	五二五	六、二二五	三、六七五	／	二、〇二五	一、七二五	／	／	／	／	一、二二五	／	／	／
／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／
／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／
一、〇〇〇	五、二五	二、二五〇	一、二五〇	三、六二五	五、九〇〇	七、五〇	一、五五〇	二、二〇五	二、二五	一、二二五	九、〇〇	四、五〇	二、二五〇	三、三〇〇	六〇〇	一、二七五
五〇	四〇	三八	三七	四六	三〇	三〇	四九	六一	四九	三六	三二	五七	四七	六〇	二二	二二
綠黃圓	黃褐卵圓	綠黃卵圓	同	青黃卵圓	綠黃圓	青黃圓	淡黃卵圓	青黃地長圓	淡黃卵圓	褐黃圓	黃圓	青黃圓	同	青黃長圓	綠黃圓	紅霞地二卵圓
同	同	同	同	稍良	良	同	同	同	同	同	同	最良	同	稍良	良	同

葡萄

葡萄ノ品種試験ニ付キテハ一種五本ツ、明治四十年乃至同四十三年ニ亘リテ畦幅株間各六

ナポレオン、サヴ非ニヨン	デユセス、ダングレーム	ブロード、グッド	ヴール、チール	パウントン	ダナス、ボーバー	ヴ非カー、オプ、 ウ非ンクフ非ルド	ヴール、グリスデーヴル	グロー、モーン	クラップス、フェポリット	ローレンス	ウインター、バートレット	ル、コント	ロスネ
中	晩	早	同	同	同	同	同	晩	同	中	同	晩	早
否	稍適	否	稍適	適	否	同	同	適	同	否	適	同	同
同	八年	十年	十二年	九年	八年	十二年	八年	十二年	同	十三年	十二年	十三年	十五年
至自 九、八、三	至自 九、九、三	至自 七、三、九	至自 九、九、三	至自 一〇、一、一	至自 一〇、一、一	至自 一〇、一、一	至自 一〇、一、一	至自 一〇、一、一	至自 八、二、九	至自 九、一、三	至自 九、一、三	至自 八、一、六	至自 八、一、二
七五	三〇〇	一	一、五〇〇	二二五	一、五〇〇	二〇二五	一、五〇〇	二六二五	五二五	一〇〇五〇	三〇〇	一、四二五	六三〇〇
二二五	三八二五	三、二二五	七〇五〇	二一〇〇	/	一〇二七五	/	二二七五	五四〇〇	八四七五	一九五〇	一、五七五	六、九七五
九七五	一四、四七五	七、九五〇	九、四五〇	/	/	二、四〇〇	/	一、八七五	四、四二五	一六、五七五	/	五二五	八、二五〇
/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	一、五七五
/	/	/	一、四二五	/	/	一五〇	/	一七五	三七五	七、九五〇	/	/	四、〇五〇
四二五	六二〇〇	五、五八八	三八八五	一一六三	二五〇〇	二九七〇	二五〇〇	三七二〇	二、一四五	八六一〇	七五〇	一、二七五	五、四三〇
五三	三六	二九	六九	八八	三八	五七	六二	五〇	三七	三五	四九	四九	五二
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
圓錐	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	良	稍良	良	不良	同	同	同	同	同	同	同	同	同

尺ニ定植ヲ行ヒテ試験ヲ續行シ正ニ其ノ概梗ヲ明カニセントスルニ當リ不幸ニシテ大正二年一月十二日零下二十八度ノ猛寒及同四年一月中旬ニ於ケル烈寒ノ持續ノタメ各品種ノ寒傷甚タシク凍死セルモノ多キヲ以テ徹底的ニ試験成績ヲ擧ケ得サルヲ以テ大正七年全部堀リ取り新ニ優良ナル品種ノミヲ撰擇シ畦幅九尺株間六尺ニ更植ヲ行ヒ一品種ノ樹數ヲ二十本トナセリ又支那ヨリ新品種五本ヅ、輸入植付ヲナセリ畦幅ヲ擴大セルハ冬期防寒ノ覆土ヲ十分ナラシメントスルニアリ

作付面積 六反歩

整枝法 二段垣造リ高サ三尺五寸

株 間 六尺

畦 間 九尺

供試品種及摘要

種 類 名	苗ノ產地	種類	本數	植付年月日	苗木年齡	病害對樹ノ強弱	開葉期	開花期	葉ノ缺刻ノ深淺
デンフアンデル	當場	歐洲	三〇本	大正八年四月	一年	最 強	五月一日	至自六月九日	深
マ タ ロ ー	同	同	同	同	同	同	四月三〇	至自六月二日	淺
メ ル ロ ー	同	同	同	同	同	同	五月四	至自六月三	稍 深
ビ ノ ー、ブ ラ ン	同	同	同	同	同	強	五月五	至自六月二	同
ボ ル ド ー、ノ ア ー ル	同	同	同	同	同	稍 弱	五月一	至自六月七	淺

紫電霜	晚香玉	牛奶	鷄心	龍眼	ゴールデン、クキーン	レデイ、ワシントン	マスカット、ローズ	マスカット、ランジー	プロセッコ	モスカート	
同	同	同	同	滿洲	同	同	同	同	同	同	
同	同	同	同	同	歐洲	米國	同	同	同	同	
同	同	同	五	五	同	同	同	同	同	同	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
弱	稍強	同	同	同	強	最強	弱	強	同	同	
五、一	四、二七	四、二七	四、二九	四、二七	五、一	四、二六	五、三	四、三〇	五、一	五、一	
						至自 六、八 六、五	至自 六、三 六、三	至自 六、二 六、八	至自 六、六 六、二	至自 六、二 六、八	至自 六、三 六、三
						稍深	稍淺	淺	深	最深	同

施肥 四月上旬ヨリ同下旬ニ亘リテ行ヘリ

覆土 十一月中旬ヨリ同下旬ニ亘リテ行ヘリ

除土 三月下旬ヨリ四月上旬ニ亘リテ行ヘリ

病蟲害

大正八年 壁蝨及里痘病ノ發生セルモ被害ヲ認ムルニ至ラス

大正九年 害蟲トシテハ壁蝨ノ僅ニ發生シタルノミナリ病害トシテ黒痘病ノ被害ヲ認メ

タルヲ以テ五月下旬及六月下旬ニ三斗式ボルドー液ヲ撒注シ蔓延ヲ豫防セルヲ以テ被害甚シカラス

大正十年 前年ト大差ナシ

生育及結實狀況

大正八年 一般ニ生育良好ナリキ

大正九年 開葉後生育極メテ旺盛ナリシモ五月下旬ニ於ケル降雹ハ枝梢未ダ柔軟ナル時ナリシヲ以テ甚シキ損傷ヲ與ヘ挫折又ハ打傷ヲ蒙リタル以外ニ更ニ七、八月ニ於テ二回ニ亘ル未曾有ナル出水アリテ浸水時間長カリシニモ拘ラス成績良好ナルモノハ植付後僅ニ二年ニシテ既ニレデイワシントン〔種ハ一反步當リ百二十七貫百五十八匁〕デンファアンデル〔種ノ同五十一貫四百五十九匁〕サヅキニヨンジョーンス〔種ノ同四十五貫匁〕ブラックセントピーター〔種ノ同三十七貫九百五十九匁〕ノ結實ヲ見タルハ異數ノ好成績ナリトス

大正十年 大前年ニ於ケル出水等ノタメ土地過濕ニ陥入り枝ノ充實十分ナラス加フルニ烈寒ノタメ多少結果枝ヲ傷害シタルニ因ルナランカ昨年ニ比スレハ成績優良ナラスト雖モ收量最モ多キモノハ一反步當ブラックサララ〔種ノ五十八貫五百匁〕デンファアンデル〔種ノ二十三貫三百匁〕ノ結實ヲ得タリ其ノ他ノ品種モ多少結實セサリシモノナカリシハ好成績ト認ムル所ナリ而テ前年結實多カリシ品種ハ當年ハ不作ヲ來タセリ又各品種ニ亘ル收穫狀況ハ未タ一般ノ參考ニ資スルニ足ラサルヲ以テ數量調査ヲ除ケリ

李 杏 類 (方二間植)

作付面積 八畝歩

整枝法 半圓形

供試種類及摘要

種 類 名	産苗地ノ	本 數	年 植 日 付	年 苗 木 齡	年 試 度 作	地 上 一 尺 於 之 平均 周 圍	樹 病 害 對 強 弱	開 花 期	開 葉 期	終 落 期 葉
兵 庫 巴 且 杏	興 津	五	明治四〇、四、二七	一 年	自 大 正 六 年 至 大 正 十 年	二、一八	強	自 四、二〇 至 四、二六	四、二〇	一、二二
寺 田 巴 且 杏	同	三	同	同	同	二、四二	同	自 四、二一 至 四、二七	四、二一	一、二二
洋 李	東 京	四	同	同	同	二、五二	同	自 四、二七 至 四、三三	四、二七	一、二二
兵 庫 杏	同	五	同	同	同	一、九九	同	自 四、二七 至 四、三三	四、二七	一、二二
東 京 杏	同	五	同	同	同	二、四二	同	自 四、二七 至 四、三三	四、二七	一、二二
李 <small>イックウオーズ イムベラトリス</small>	同	二	同	同	同	一、六八	弱	自 五、二九 至 五、三六	四、三〇	一、二七
ア ー リ ー、ム ア パ ー ク	興 津	二	明治四四、四、二五	同	自 大 正 八 年 至 大 正 十 年	同	同	同	同	同
コ ロ ン ビ ヤ	米 國 カリフォルニア	同	同	同	同	同	同	同	同	同
ワ シ ン ト ン	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

李 杏 類

生育不良ニシテ又結實ハ既ネ小顆ニ失シ品質不良ナリシ
 大正八年 冬期温暖ナリシヲ以テ前年ノ衰弱ハ恢復シタリト雖未タ好結果ヲ得ルコト能
 ハス

大正九年 創業以來始メテノ猛寒ニ際シ甚シキ慘害ヲ及シタリ今日迄寒氣ニ抵抗力强カ
 リシ「アイリー、ムアバーク」ノ如キハ十四年ノ旺盛期ナリシニ拘ハラズ全滅スルニ至レリ從ツ
 テ其成績ノ良好ナリシモノハ僅ニ寺田巴且杏ニ過キス

大正十年 各品種ハ寒害ノ餘殃未タ恢復スルニ至ラサリシモ獨リ「イックウオーズイムベ
 ラトリス」ハ相當ノ成績ヲ得タリ又寺田巴且杏ハ豐作ノ後ヲ受ケ著シク減收スルニ至レリ然
 レトモ果實ハ各種共豐大ニシテ未タ嘗テ見サル大顆ヲ得タリ就中寺田巴且杏ノ如キ大ナル
 モノハ一顆二十八匁以上ニ達スルモノ尠カラス

收穫及特性

種類名	早中 貯藏 適否	晚貯 藏 適否	收穫期	一反步改算收穫顆數					平均 重量	平均 色別	平均 形狀	平均 品質
				大正六年	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年				
寺田巴且杏	中否	否	自 七月 二六日 至 八月 一五日	一〇、三五〇	五、二三五	五、一三〇	八、五九〇	四、八〇七	六、九九九	一〇	淡紅	長圓最良
洋李	同	同	自 八月 八日 至 八月 三十一日	一、二五五	三、二八五	九、七五〇	一、六二七	二、一五〇	一、六七一〇	二	黃	圓良
兵庫杏	早同	同	自 七月 廿二日 至 七月 廿七日	二、六九五	六、四〇五	四、三八〇	三、三〇〇	—	二、七六一五	一〇	赤褐	圓稍良
東京杏	同	同	自 七月 廿七日 至 七月 廿七日	二、二五〇	四、八四五〇	二、三、一七五	二、二五	—	一、四八二〇	二	同	圓同

李杏類

李 イックウオーズ イムペラトリス	晚	稍適	同	至自 九、一 九、二	七、〇〇〇	一四、七五〇	一〇、八七五	二、四〇〇	六、三六七五	五、〇六二五	一〇	深紅	楕圓	良
アーリー、ムアパーク	中	否	同	至自 八、二 八、六	八、三三五	二、三三五	二、三三五	/	/	四、三三五	二	黃	卵圓	最良

模範栽培

本栽培ハ適種ト認メタル種類ヲ廣キ地積ニ栽培シテ當業者ニ模範ヲ示サントスルニアリ

苹果

作付面積 一町二反二畝十六坪

整枝法 立木造(圓錐形)

供試品種及其行事

品 種 名	株間	本 數	植 付 年 月 日	苗 木 年 齡	植 付 後 年 齡	收 穫 期	一 反 步 改 算 收 穫 顆 數					平 均	平 均 重 量
紅 玉	方二間	本 四九	明治三十五年五月三日	一年	十三年	自 九月一七 日 至 十月三 日	大正六年 一七、八五〇	大正七年 二九、八五〇	大正八年 一四、七〇〇	大正九年 二、六〇〇	大正十年 一三、一二五	一九、四二五	三、八
柳 玉	同	同	同	同	同	自 十月三 日 至 十一月三 日	一七、八五〇	二九、八五〇	一四、七〇〇	二、六〇〇	一三、一二五	一九、四二五	四、六

低地ナルヲ以テ八月ノ洪水後浸水部ニ對シ三斗五升式ボルドー液ヲ撒注シ褐斑病ヲ防除シタリ

大正八年 害蟲ノ發生及被害狀況ハ種類試驗區ト大差ナキモ腐爛病ハ再ヒ著シク蔓延ヲ來シ極力防除ニ努メタルモ國光倭錦ノ如キハ枝幹ノ枯死スルモノ多數ヲ算セリ

大正九年 種類試驗區ト大差ナシト雖「エーローニユートン、ビツピン」ハ寒害最多カリシヲ以テ腐爛病ノ發生モ一層大ナルニ至リ枯死スルモノ尠カラス

大正十年 前年腐爛病ノ蔓延夥シカリシ跡ナルヲ以テ本年ハ發芽後二斗式ボルドー液ヲ枝幹ニ十分撒注シ其後時々食鹽加用石灰乳ノ塗抹ヲ行ヒ極力防止ニ努メタリシカ前年大害ヲ受ケタルモノヲ除ク外ハ新ニ蔓延シタルモノハ僅少ニ過キス又七月ヨリ八月上旬ニ亘リ曇天多カリシカ八月中旬ニ至リ俄然晴天打チ續キ氣温ハ上昇シ日射強烈トナリシヲ以テ枝端ノ陽面ニ向ヒタル果實ノ日射病ニ侵サル、モノ多ク不測ノ大害ヲ蒙レリ就中倭錦及國光ハ其被害甚シカリシ其ノ他多少病害ノ發生アリシト雖輕微ニ過キス
生育及結實狀況

大正六年 寒害ノ後又稀有ノ乾燥ニ遇ヒシヲ以テ生育ヲ妨ケラレ枝梢ノ伸長ハ例年ニ比シ稍劣勢ヲ示セリ又方二間植紅玉ハ昨年多少褐斑病ノ害ヲ蒙リ國光ハ豐作ノ影響ヲ受ケタルヲ以テ概シテ優良ナル成績ヲ見ルコト能ハサリシ

大正七年 發育良好ニシテ結實ハ十年生鳳凰卵ヲ除ク外何レモ良好ナリキ大正二年及三年ニ植付タル鳳凰卵「エーロー、ニユートン、ビツピン」ハ結果期ニ入ルコト遲キ品種ナルヲ以テ

未タ多クノ結實ヲ見ルニ至ラス

大正八年 風害ヲ受ケタルコトハ種類試験ト大差ナシ獨リ紅玉ハ風害比較の少ク相當ノ

成績ヲ得タリ

大正九年 種類試験ト大差ナシ

大正十年 種類試験ト大差ナシ

梨 (方二間植)

作付面積 四反歩

整枝法 立木造(圓錐形)

供試品種及收穫狀況

種類名	本數	植付年月日	苗木年齢	植付後樹齡	收穫期	一反歩改算收穫顆數					平均重量	
						大正六年	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年		平均
長十郎	本三〇	明治四、五二	一年	十四年	自九月一日至九月九日	二、四七五	一、五〇七	一、八六〇	一、八二八	二、八四二	九、九六二	五、六
世界一	二七	同	同	同	自九月二日至九月九日	四、四二五	五、四七五	八、五五〇	五、二二三	六、四一三	六、〇一五	四、七
泰平	二元	同	同	同	自八月二日至八月九日	一、三二五	八、七七五	一、六九五〇	五、六五八	七、四三五	一〇、三八九	四、一
早生赤龍	二五	同	同	同	自九月三日至九月九日	六、三七五	一、三七二五	一、七四七五	二、九六四	六、〇四二	九、三二六	四、九

梨類

梨類

今	晚	三	吉	二〇	四、四、七	同	同	十三年	至自	至自	八三三五	六九七五	一二〇〇〇	一四、三五	八〇六三	六五八一	九五八九	七六
村	秋	一四	四、四、七	同	同	同	同	同	至自	至自	八三三五	六九七五	一二〇〇〇	一四、三五	八〇六三	六五八一	九五八九	七六
秋	一四	四、四、七	同	同	同	同	同	同	至自	至自	八三三五	六九七五	一二〇〇〇	一四、三五	八〇六三	六五八一	九五八九	七六

四〇

施肥期 自四月上旬至四月中旬
 剪枝及整枝 種類試驗ニ同シ
 摘果 種類試驗ニ同シ
 病蟲害 各年ニ亘リ種類試驗ト大差ナシ
 生育及結實狀況 各年ニ亘リ種類試驗ト大差ナシ

桃

作付面積 一反二畝二十步
 整枝法 半圓形
 供試種類及摘要

上	種	類	名	本數	植付年月日	年苗	齡木	地上	病	害	開	開	終
海	八四	本	明治四〇、四、二九	一年	一年	二四〇	尺	強	至自	至自	四、二五	四、一〇	一〇、三〇
八四	本	明治四〇、四、二九	一年	一年	二四〇	尺	強	至自	至自	四、二五	四、一〇	一〇、三〇	一〇、三〇

袋掛 六月上旬

袋掛ハ防蟲ノタメニアラスシテ日光直射スルトキハ果實ノ皮膚粗硬トナリ發育良好ナラサルヲ以テナリ

病蟲害

大正六年 心折蟲、蚜蟲等ノ發生アリシモ其害大ナラス

生育及結實狀況

大正六年 大正五年即チ植付後十年ヲ經過スルマテハ樹勢旺盛ニシテ結實美大豐作ヲ持續セシカ當年烈寒ノタメ各樹ノ枝幹多少縱裂ヲ生セサルモノナク供試本數八十四本ノ中六本ハ幹根共ニ枯死スルノ慘狀ヲ呈シ枯死ヲ逃レタルモノモ半死ノ狀態ニ陥リシカ夏季殆ント死滅スルニ至レリ

收穫及特性

種	類	名	早中晚	貯藏 適否	植付後 樹齡	收穫期 自 月 日 至 月 日	昨年平均 一樹收顆 大正六年 平均一樹 收顆 大正六年 一反歩改 算收顆	平均一 顆重量	色別	形狀	品質
上		海中	否	十一年	自 月 日 至 月 日	四 弱	二八九 個	六〇 匁	紅淡黃地ニ 露	豐圓	最良

以上ノ實驗ニ依レハ攝氏零下二十度以下ノ地方ニ於テハ往々寒傷ニ罹リ二十五、六度ニ至レハ全滅ノ怖アリ

模範栽培 (二)

果樹ト蔬菜ノ共作

本栽培ハ果樹ヲ主作物トシ他ノ作物ヲ混和シテ累年其ノ收支ヲ計算シ模範ヲ示サントスルニアリ其ノ目的トスル所ハ小農ニシテ果樹ヲ栽培セント欲スルモ集約的ニ之カ栽培ヲ行ハシカ果樹ヨリ相應ノ收利アル迄數年ノ間主要作物ノ收入ヲ減シ生計ノ資ヲ得ルニ苦ミ經營ノ困難ヲ來スノ恐アルヲ以テ成ルヘク他ノ作物ヲ混作セシメ其ノ經營ヲ容易ナラシメンタメ果樹ヲ廣距離ニ栽植シ其ノ間ニ他作物ヲ栽培シテ利害得失ヲ明カニシ其ノ模範ヲ示サントスルニアリ

作付面積 二反歩
供試品種

種類	品種	植付年月日	本數	樹齡	枯死本數
梨	長十郎	明治四〇、五一 年 月 日 大正七、四、三〇	大正六年 大正七年 大正八年 大正九年 大正十年	一五年	寒傷ノタメ 一本枯死
同	同	大正七、四、三〇	一	一二年	寒傷ノタメ 二本枯死
同	世界一	明治四〇、五一	一	一五年	寒傷ノタメ 二本枯死
同	泰平	同	一	一五年	寒傷ノタメ 二本枯死

大正十年	里芋	二八〇	白	菜	五、四	至自	七、二九	八、二七	至自	二、三六
同	甘藍	一〇〇	同		五、一	五、二八		—	至自	七、一八

生育狀況

大正六年 甘藍ハ極早生小球種ナリシカ移植後乾燥甚タシカリシタメ發育不良ニシテ結球期ヲ失シ又蚜蟲、紋白蝶幼蟲ノ被害モ少カラスシテ不成績ニ終レリ里芋ハ下種後乾燥ノタメ發育不十分ナリシカ夏期潤澤ナル濕氣ヲ得テ發育漸ク旺盛トナリ好成绩ヲ舉クルヲ得タリ白菜ハ發芽不整一ナリシモ其ノ後ノ生育ハ良好ニシテ相當ノ成績ヲ舉クルコトヲ得タリ

大正七年 八月十六、七日ノ洪水ノタメ蕎麥ハ發芽當時ナリシヲ以テ全部枯死シ雁喰黒大豆ハ其ノ被害輕微ナリシモ其ノ成績良好ナラス

大正八年 下種期ニ際シ土地ノ乾燥最モ甚タシカリシヲ以テ發芽稍不揃ヲ來タシ發育モ亦遅々タリシカ秋期ニ入り天候順調ナリシヲ以テ其ノ勢力ヲ恢復シ蚜蟲ノ來襲ヲ多少亨ケタルモ被害大ナルニ至ラス佳良ノ成績ヲ得タリ

大正九年 洪水氾濫後下種セルヲ以テ濕潤適當ナリシカハ發芽整一ニシテ其ノ後ノ發育極メテ良好ニシテ僅ニ蚜蟲ノ發生ヲ認メタルモ除蟲菊石鹼水ノ撒注ニヨリ驅除シタリ而テ下種遅レタルニモ拘ラス晩秋高温ヲ持續セシヲ以テ比較的的良好ナル成績ヲ得タリ

大正十年 下種後發育良好ナリシカ夏期旱天持續シタルタメ日中葉莖萎凋スルニ至リ成績佳良ナラス又甘藍ハ種子不良ナリシタメ結球堅固ナラス今五個年ニ亘ル支出及收入ヲ明

ニスレハ左ノ如シ

支出ノ部

年次	種類名	種子量	種子代	員數	賃金	肥料代	驅除劑費	員數	賃金	單價	計	累計
大正六年目	梨	—	—	日男 二一人	〇、五五〇	八、七四〇	四、四八〇	日男 二一人	一、〇〇〇	日男 〇、五五〇	二、二八〇	六〇、四三三
	甘藍	〇、〇〇五	〇、三三五	日男 三一人	〇、五五〇	一、五四〇	—	日男 三一人	〇、七〇〇	日男 〇、二五〇	四、七一五	
大正六年目	里芋	二、〇〇〇	四、〇〇〇	日男 一八三人	一、六五〇	一、三二五〇	—	日男 一七一人	〇、五五〇	日男 〇、二五〇	二九、一〇〇	三三、五六九
	白(後作)菜	〇、〇五〇	〇、一〇〇	日男 三一人	一、七〇〇	一、一九〇	—	日男 三一人	〇、七八〇	日男 〇、四七〇	三、七九〇	
大正七年目	雁豆	〇、五〇〇	〇、五〇〇	鮮男 四一人	一、〇〇〇	—	—	鮮男 四一人	〇、三三五	日男 〇、六五〇	三、二二五	八六、六〇六
	蕎麥	五、〇〇〇	〇、八〇〇	鮮男 四五人	二、〇三〇	—	—	鮮男 四五人	〇、六〇〇	鮮女 〇、二〇〇	二、八二五	
大正八年目	梨	—	—	日男 四一人	一、〇〇〇	一、五六〇	三、六三四	日男 四一人	四、〇〇〇	日男 〇、六〇〇	四、一三九九	二、六、〇八六
	蘿蔔	〇、八〇〇	一、四四〇	日男 三六三人	一、三〇〇	一、五九七	—	日男 三六三人	三、九七〇	日男 〇、二〇〇	四、五二〇七	
大正九年目	梨	—	—	日男 四一人	一、〇〇〇	二、〇三九	—	日男 四一人	四、〇〇〇	日男 〇、八〇〇	三、八六六四	—
	白開城菜	〇、八〇〇	一、二〇〇	日男 七一一人	一、〇〇〇	四、六〇四	一、七五〇	日男 七一一人	三、六〇〇	日男 〇、三〇〇	八、七四三三	

模範栽培

四五

苹果自然形栽培

本栽培ハ明治四十二年四月當場ニ於テ養生セル苹果倭錦一年苗ヲ方二間ノ距離ニ植付ケタルモノニシテ植付後八年目即チ大正六年ニハ枝梢相接近シ狹隘ヲ告ケタルヲ以テ中間樹ヲ一本抜キ取り方四間トナシタリ(植付ノ際苗木ヲ地上一尺五寸ノ高サニ剪去シタル後ハ施肥病蟲害防除摘果及除草ヲ普通ニ行フノ外自然ノ生育ニ放任セルモノニシテ其目的ハ剪定整枝ヲ行ヒタルモノニ比シ樹齡ノ長短樹ノ容積結實ノ良否等ノ如何ヲ知ラントスルニアリ然レトモ如斯自然形栽培ハ病蟲害ヲ完全ニ防除シ施肥其他管理充分ナルニアラサレハ成績ノ良好ヲ期スルコトノ困難ナルハ言ヲ俟タスシテ明ナル所ナリトス

供試種類並ニ收穫狀況

種類名	本數	植付年月日	收穫期	一反歩(十八本)改算收頼						平均一頼重量
				大正六年	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年	平均	
倭錦	六本	明治四十二年四月	自五月二日至四月一日	一〇五八四 個	一〇六〇二 個	六六六〇 個	一一二五〇 個	二七〇〇 個	八五三九 個	三七 匁

生育及結實狀況

大正六年 稀有ノ烈寒ニ遭遇セシニモ不係發育良好枝梢固熟セルヲ以テ何等寒傷ヲ認め

ノ平均成績ヲ記述スルモノナリ然レトモ水害其他天災ニヨリ或ハ購入種子ニシテ其品質劣變シ固有ノ特性ヲ失ヒタル等ハ其成績確實ナラサルヲ以テ本成績ニ加入セサルモノアリ故ニ假令五個年間ノ栽培ヲ行ヒタルモ其中ニハ之レ以内ノ平均ヲ示セルモノアリ又年ニヨリ下種期移植期中耕期補肥期間引期收穫期等ニ多少ノ相異アルモ之等ハ凡ソ例年ノ標準ニ據レリ

比較栽培

胡蘿蔔播種期比較

本試験ノ目的ハ播種期ニヨリ其收量及品質ニ及ホス關係ヲ知ラントスルニアリ
肥料用量及栽培法ハ模範栽培ニ準ス
收穫狀況

品種名	下種期	作付 步數	抽臺 本數	收穫 期	總收 穫量	本收 穫數	除葉量	反步改良平均				平均一 本重量	
								收穫量	收穫本數	除葉量	上品量		中品量
三寸	五月一日	四步		十月下旬	六七二〇	八二	三八〇〇	六二五〇	一五四〇	五五七二	七六二四	八二	
	五月			同	同	六二八七	九八	三四三三	七三五〇	六六九四	七四〇一	七六一五	六三
	五二五			同	同	同	六九八三	九二	四九六七	六九〇〇	三八四三	八八六〇	七六

大札																		
札幌太							長幌											
六二五	六二五	六二五	五二五	五二五	五二五	五二一	六二五	六二五	六二五	五二五	五二五	五二五	六二五	六二五	五二五			
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同			
-	-					-				-	-	二	-					
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同			
一一三七八	一三三〇〇	一三八三三	一一一三三	九六〇〇	八二〇〇	九一三三	一一七二三	二二七六七	一一五六七	九〇六七	五三六七	五九三三	九一六七	一一六二三	一三七三三	一一四〇〇	七六三三	
二六六	二五六	二七三	一四三	九九	八九	九〇	二五六	二六八	二四八	一一一	七四	八二	八五	二九九	二七一	二四三	二二四	
九一八九九二八三五〇	八八三九九七五〇〇	九三〇〇一〇三七、四七	七八六七八三四九七五	六三六七七五〇〇	四九〇〇六一五〇〇〇	五〇一七六八四九七五	八一八九八七九一五〇	九一六六九五七五二五	八六〇〇八六七五二五	六七三三六八〇〇二七	三〇〇〇四〇二五二五	三六四三三三九七五	五五四〇六八七五二五	九三二一九四六六五〇	九四三三二〇三九、九七五	七五五〇八五五〇〇〇	四八〇〇五七二四七五	
一九九五六九〇、一七五二三四一八七三三六、一七八二三、四九九九	一九〇七六六二、四七五二一五六、四六〇二四五、六九七二七七、九九五	二〇、四七五、六九七、五〇〇	一〇、七二五、五九〇、〇二五二二六、四〇八二六、〇、四四五二〇、三五七二	七四二五、四七七、五二五二二三、二八六一〇、九四六一二、四四七七八	六六七五、三六七、五〇〇二一八、八八七一〇、六五五、一四二、〇六八	六七五〇、三七六、二七五二一七、一六四八二、〇〇一三、八四六一四	一九二〇〇、六一五、一七五二四八、三三五二二、〇〇五九二、五五六、七九一	二〇、一〇〇、六八七、五〇三二〇、二二五二一九六、九三二二八、八、四四五	一八〇〇六、六四五、〇〇〇二三七、四三〇二二、三、四四四一九四、一二六	九〇七五五〇四、九七五二二四、七六〇一〇、七、一〇一七、三、一一四	五、五五〇、二二七、〇〇〇	六、一五〇、二七三、二二五二一七、四七一、九一、五九六、六四、一五八	六、三七五、四一五、五〇〇二二二、三三七二一九、一七〇、七四〇〇三	二二、四二五、六九八、三三五二二七、七八七二四九、〇三二二〇、八、九九一	二〇、三二五、七〇七、四七五三九、六九九四一九、五三五二四八、二四一	一八、二二五、五六六、二五〇二三七、四七七二〇、六、四五六二二、三、三一九	九、三〇〇、三六〇、〇〇〇	七三、二八四二〇、九九七〇二、六九一七〇
四七	五二	五一	七八	九七	九二	一一三	四六	四八	四七	七五	七三	八二	一〇八	四二	五一	四七	六三	

備考 右表中總收穫量ハ葉付ノマ、除葉量ハ葉ヲ除キタル量ヲ示ス
生育狀況

大正六年 第二期迄ハ發芽良好ナリシモ其後雨期ニ入りテ腐敗スルモノ多ク又第三期ヨリ第六期迄ハ氣候乾燥ナリシタメ殆ント發芽セス灌水ヲナシ漸ク發芽セシメタルヲ以テ其成績ハ良好ナラス殊ニ第一期ヨリ第二期ニ亘リ腐敗ヲ生シタルヲ以テ本區ハ成績一層不良ナリ

大正七年 第三期迄ハ發芽良好ニシテ第四期ヨリ第六期迄ハ氣候乾燥ナリシタメ發芽不揃ヲ來シタリ加フルニ八月十六七日ノ洪水後第一期ヨリ第三期ニ多クノ腐敗ヲ生シタルヲ以テ本年モ前年同様ノ成績ニ陷レリ

大正八年 七月上旬迄ハ時々降雨アリシヲ以テ各區共ニ發芽概ネ整一發育モ亦良好ナリシカ七月下旬ヨリ稀有ノ旱魃ニ遭遇シテ發育不良ニ陥リ各期何レモ優良ナル成績ヲ得ルコト能ハサリキ

右ノ結果ヨリ見ルトキハ當場ニ於ケル胡蘿蔔ノ下種期ハ餘リ早キモノハ肥大根莖ヲ得ト雖雨期ニ腐敗ヲ生シテ收量ヲ減シ又品質ヲ損シ易ク遅キニ失スルトキハ根部ノ發育不充分ナルノミナラス品質ノ優良ナルモノヲ得難シ其適期ハ畢竟五月中下旬ナリトス

因ニ下種早キモノハ當場附近ニ限ラス他ノ地方ニ於テモ雨期後腐敗スルモノ多シト言フ栽培者ノ好參考資料ナランカ

里芋種子ノ大小ト收量トノ比較

本試験ノ目的ハ種子ノ大小カ收量ニ如何ナル影響ヲ及ホスヤヲ知ラントスルニアリ

供試品種 早生芋

肥料用量 品種比較ニ同シ

栽培法 品種比較ニ準ス

比較區別及其ノ行事並ニ收穫狀況

年 別	大 正 六 年		大 正 七 年		二 個 年 平 均		作付歩數	下種量	收穫期	種芋一個 平均重量	一 反 步 改 算 收 穫 量		
	大形芋	小形芋	大形芋	小形芋	大形芋	小形芋					子芋收穫量	親芋收穫量	總收穫量
	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三三、五	三三、五	三〇	二、三〇〇	十月下旬	一九	二七〇、〇〇〇	一四〇、〇〇〇	四一〇、〇〇〇
	九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	九四〇	九四〇	同	九〇〇	同	八	一、一六六〇〇	八〇〇、〇〇〇	一九六、六〇〇
	三、七八〇	三、七八〇	三、七八〇	三、七八〇	三、七八〇	三、七八〇	同	三、七八〇	十一月下旬	二七	四三二、一四三	一三四、五七一	五六五、七一四
	三、七八〇	三、七八〇	三、七八〇	三、七八〇	三、七八〇	三、七八〇	同	三、七八〇	同	七	二、三三、一四三	八〇、五七一	三、一三七、一四
	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	同	三、三〇〇	十一月下旬	二二	三、五〇、五七二	一三七、二八六	四、八七八五八
	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	同	三、三〇〇	同	八	一、七四、八七三	八〇、二八六	二、五五、一五八

右ハ大正五年ヨリ三個年ニ亘タリ繼續試験ヲ行ヒタリ

比較栽培

長芋種子ノ大小ト收量トノ比較

本試験ノ目的ハ種子ノ大小カ收量ニ如何ナル關係ヲ及ホスヤヲ知ラントスルニアリ
肥料用量一反歩當

原料	總量	原肥	價格
堆肥	200 貫	200 貫	3530 円
人糞	100	100	627
過磷酸石灰	6	6	1361
木灰	20	20	310
計	1	1	5823

原肥施用期 四月下旬

供試品種 長芋

比較區別及其ノ行事並ニ收穫狀況

區別	畦幅	株間	作付歩數	種子量	一本平均種子量	下種期	支柱立收穫期	年試數	一反歩改算平均數收穫量	平均一本重量	種子量ト收穫量トノ増減	品質良否
第一區	二〇尺	一五尺	二歩	二四〇匁	一〇匁	四月下旬	五月中旬	自大正六年至大正八年	四三五〇〇〇	一四八匁	増 割 二二〇八	良
第二區	同	同	二	一〇八〇	四五	同	同	同	五二八〇〇〇	一五五	増 三二六	最良
第三區	同	同	二	一九六〇	八三	同	同	同	五八一〇〇〇	一七三	増 一九八	同
第四區	一五	〇四	三	四八	〇四	同	同	大正八年	三〇三〇〇〇	三三	増 四二〇八	不良

右表ニ示ス如ク凡ソ種子量ニ對スル收量ノ増加歩合ハ小芋ニ多ク大芋ニ至リ漸次少キヲ見ル

生育狀況

大正六年 春期乾燥ナリシヲ以テ發芽不齊ナリシモ其後ノ發育ハ概ネ良好ナリキ

大正七年 發芽整一ニシテ第一區ニ四本第二區ニ二本ノ腐敗缺株ヲ生シタル外生育良好

ナリキ

大正八年 發芽整一ニシテ其ノ後ノ生育モ良好ナルヲ得タリ

南瓜株間比較

本試驗ノ目的ハ畦幅六尺ニ對スル株間ノ適當ナル間隔ヲ定メントスルニアリ

肥料用量一反步當

原	料	總	量	原	肥	補	肥	價	格
堆肥	人糞尿	荏粕	米糠	過磷酸石灰	木灰	計			
300	300	100	100	100	100	100	100	100	5.250
		6	6						2.568
		1.3	1.3						6.81
		2.5	2.5						1.13
		1	1						3.8
		1	1						1.035

原肥施用期 五月上旬

供試品種及其ノ行事並ニ收穫狀況

品	種	名	株	間	別	作	付	步	數	下	種	期	移	植	期	中	耕	及	補	肥	期	收	穫	期	試	作	年	數	獲	算	平	均	收	獲	量	平	均	一	株	結	顆	數	平	均	一	個	重	量				
同	縮	緬	四	三	尺	同	六	步	同	三	月	下	同	五	月	上	同	六	月	上	同	自	八	月	中	同	自	大	正	六	年	三	九	〇	五	三	五	四	六	九	六	七	五	一	八	二	四	個	五	六	八	分

同	同	三毛門	同	同	内藤	同
六	四	三	六	四	三	六
同	同	同	同	同	同	同
同	同	四月上旬	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同
同	同	自八月下旬 至十月上旬	自八月中旬 至十月上旬	自八月下旬 至九月中旬	自八月下旬 至九月中旬	同
同	同	同	同	同	同	同
六〇六八五〇	五三一五〇〇	五三二七五〇	五三五八五〇	四〇八四五〇	四九三、一七五	四一五一〇〇
三〇	一七	一二	三〇	一七	一四	二八
六九六	八六三	七四六	六一六	五三二	六四八	五一九

生育狀況

大正六年

移植當時乾燥甚シカリシタメ稍衰弱シタルモ其ノ後ノ發育ハ頗ル旺盛ニシテ

各區共相當ノ成績ヲ擧クルヲ得タリ

大正七年

前年ト大差ナシ

品種比較

本試験ノ目的ハ各品種ノ優劣ヲ比較セントスルニアリ

セ
ル
リ
ー

肥料用量一反歩當

原 料	總 量	原 肥	補 肥		價 格
			第 一 回	第 二 回	
堆肥	五〇〇ノ	五〇〇ノ	ノ	ノ	九・二五
人糞尿	二〇〇	一〇〇	一〇〇	ノ	一・六九〇
大豆粕	二〇	二〇	ノ	ノ	五・六八〇
荳粕	一五	ノ	ノ	一五	四・〇四三
過磷酸石灰	七	七	ノ	ノ	一・五六七
木灰	二〇	二〇	ノ	ノ	三・五二
計	ノ	ノ	ノ	ノ	二二・四五六

原肥施用期

五月下旬 温床苗
六月下旬 冷床苗

供試品種及其ノ行事並ニ收穫狀況

品 種 名	畦幅	株間	作付 歩數	苗	下種期	移植期	補肥期		收穫期	年試 數作	一反歩改算 平均收穫量	平均一 株量
							第一回	第二回				
ホワイトブルーム	三〇 R	〇 R	一八八歩	冷床 仕立	四月上旬	六月下旬	八月上旬	九月上旬	自十月上旬 至十月下旬	自大正六年 至大正八年	四九〇、八二〇	九八
ゴールデン セルフブランチング	同	同	二四〇	同	同	同	同	同	十一月上旬	大正六、七、 八年	四五九、六三三	一一八
ホワイト、ゼム	同	同	一〇〇	同	同	同	同	同	十月下旬	大正六、七年	六三八〇〇〇	一一二
シューパービクタ	同	同	二八	同	同	同	同	同	十一月上旬	同	五六八九五〇	一一九
ソリッド、ホワイト	同	同	九五	同	三月下旬	六月下旬	同	同	十一月中旬	大正六、八年	五〇三五七二	九一
エー、ワ	同	同	二〇	同	四月上旬	七月上旬	同	同	同	大正六年	七二〇〇〇〇	一一〇
サルハム、プライズ	同	同	一〇	同	同	六月下旬	同	同	同	同	八一〇〇〇〇	一一五
シルバー、セルフ、 ブランチング	同	同	三〇	同	同	七月上旬	同	同	同	同	六〇〇〇〇〇	八六
セルリー、アツク	同	同	五二	同	同	六月下旬	同	同	十一月下旬	大正六、七、 八年	七八七七二四	一一九
ラージ、フラッグ	同	同	一四、〇	同	同	同	同	同	同	大正十年	一一二二八五七	一二四
ゴールドン、セルフ、 ランチング	同	同	一七、〇	温床 仕立	三月上旬	五月上旬	同	同	自七月下旬 至八月上旬	大正七、十年	三四八五〇〇	一二二

中耕及土寄せ 温床苗移植區ハ六月下旬及七月下旬ニ温床苗移植區ハ九月中旬十月上旬
及十月中旬ニ之レヲ行ヘリ

生育狀況 移植後生育良好ナリシカ八月上旬葉ニ褐斑病發生セルヲ以テ三斗五升式ホル

比較栽培

ドー液ノ撒注ヲ行ヒ防除ニ努メタリシカ其ノ被害ヲ免レ普通ノ成績ヲ舉クルヲ得タリ
 大正七年 褐斑病ハ前年ヨリモ勢力盛カンナリシカ前年同様防除ニ努メタルニヨリ其ノ
 効空シカラス良好ノ成績ヲ得タリ
 大正八年 移植後活着良好ナリシカ七月上旬ノ洪水ハ草丈ヲ没シタルタメ心葉及株ノ腐
 敗スルモノ多クシテ成績不良ニ終レリ
 大正十年 移植後ノ生育良好ニシテ豫期ノ成績ヲ得タリ

里 芋

肥料用量 模範栽培ニ同シ

原肥施用期 五月下旬

供試品種及其ノ行事並ニ收穫狀況

品 種 名	畦幅	株間	作付 歩數	下種期	中耕及補肥期		土 寄 期		收穫期	試作 年數	一反歩改算收穫量		
					第一回	第二回	第一回	第二回			子 芋	親 芋	總 計
長形エゴ芋	三〇 尺	三〇 尺	六〇 歩	五月下旬	七月下旬	八月上旬	八月上旬	八月下旬	十月下旬	大正六年	一五九,〇〇〇	九六,〇〇〇	二五五,〇〇〇
土垂芋	同	同	六〇	同	同	同	同	同	同	同	二五一,〇〇〇	三四,〇〇〇	三八五,〇〇〇
赤芽芋	同	同	六〇	同	同	同	同	同	同	同	一七五,〇〇〇	一九六,〇〇〇	三七一,〇〇〇

唐芋	水芋	豐後芋	今福芋
同	同	同	同
二五	一八	八〇	八五
同	同	同	同
同	同	同	同
同	同	同	同
同	同	同	同
同	同	同	同
三八四〇〇	一五〇〇〇〇	一六二〇〇〇	一〇六五八八
一〇八〇〇〇	一〇六六六七	一四一〇〇〇	一二一三五
一四六四〇〇	二五六六六七	三〇三〇〇〇	二一八八三三

栽培法及生育狀況等ハ模範栽培ニ準ス

蕃 茄

肥料用量(一反步當)

堆肥	人糞尿	荏粕	米糠	過磷酸石灰	木灰	計
三〇〇	四〇〇	二五	一五	一〇	二五	一
三〇〇	一〇〇	一〇	一五	一〇	二五	一
三〇〇	三〇〇	一五	一〇	一〇	二五	一
六〇〇〇	六〇〇〇	六二五〇	五五五	二二五〇	六二五	二二五八〇

比較栽培

原肥施用期 五月上旬
 温床仕立
 供試品種及其ノ行事並ニ收穫狀況

品種名	畦幅	株間	作付歩數	下種期	移植期	補肥平均	支柱立	中耕平均	收穫期	年試數	收穫量	一反歩收量
クリムシヨソ	四〇 _尺	二〇 _尺	二〇 _歩	自三月中旬至四月上旬	五月上旬	六月中旬	六月上旬	六月上旬	自七月中旬至十月下旬	大正七、八、	四五四四七	六八一七〇五
ミカド	同	同	八	同	同	同	同	同	同	同	一八八一七〇八〇三八	七〇八〇三八
ロポ	同	同	二	同	同	同	同	同	同	大正六、十年	三四一八三	八五四七五
クテ	同	同	一七五	同	同	同	同	同	同	大正六、七年	三八六五〇	六六二五七一
マツチンス	同	同	四	同	同	同	同	同	同	大正十年	九二九五	六九七、二五
ロサ	同	同	一八	同	同	同	同	同	同	同	五三、〇三〇	八八三、八三三

生育狀況

大正七年 移植前後ニ時々降雨アリシカハ活着良好ニシテ生育モ亦盛ナリシカ八月中旬ノ風害及水害ノタメ落顆又ハ腐敗スルモノ多ク優良ナル成績ヲ得ルコト能ハサリキ

大正八年 活着良好ナリシカ下部ニ結顆セシモノハ七月洪水後腐敗スルモノ多ク加フルニ其後稀有ノ旱魃ナリシヲ以テ發育充分ナラス不成績ニ終レリ

大正十年 發育頗ル良好ナリシカ數多ノ摘顆ヲ行ヒタルヲ以テ收量ハ平作ニ劣レリ然レトモ顆實ハ豊大美麗ナルモノヲ得タリ

豌豆

肥料用量(一反步當)

原料	總量	原肥	價格
堆肥	一五〇	一五〇	三〇〇 <small>円</small>
人糞尿	五〇	五〇	七五〇
過磷酸石灰	一〇	一〇	二一五〇
木灰	三〇	三〇	七五〇
計	一	一	六六五〇

原肥施用期 三月下旬
供試品種及其ノ行事並ニ收穫狀況

品種名	畦幅	株間	步作數付	下種期	初開花期	支柱立	收穫期	年試數作	穫實量收	一反步當ノ收穫量
アラスカ	三尺	二尺	三六步	自三月下旬至四月上旬	五月中旬	五月下旬	自六月下旬至七月下旬	大正六、七、八年	三五九九 <small>匁</small>	二九五〇〇 <small>匁</small>
マイアット	同	同	一七二	同	五月下旬	一	自七月下旬至七月下旬	大正六、七	一三三〇	二三一九八

比較栽培

バンチフル	同	同	一五三	同	五月中旬	同	五月下旬 自六月下旬 至七月下旬	同	七〇二	一三七六五
青	同	同	一七二	同	五月下旬	同	同	同	一六九八	二九六一六
手無青	同	同	一五五	同	同	同	同	同	一五五四	三〇〇七七
手無極早生	同	同	一七〇	同	同	同	同	同	二七二四	四六、五二六

生育狀況

大正六年 「バンチフル」ヲ除ク外發芽佳良ナリシカ六月上、中旬ノ乾燥ニテ嫩葉ノ萎凋ヲ來シ草勢著シク衰弱セシヲ以テ遂ニ好成績ヲ得ル能ハス就中「バンチフル」ハ發芽不良ニシテ特ニ不成績ニ終レリ

大正七年 發芽齊一發育モ亦頗ル良好ニシテ好成績ヲ得タリ

大正八年 發育良好ナリシカ收穫期ニ際シ降雨多濕ナリシト七月ノ洪水ニ草丈ヲ沒シタルタメ莢又ハ蔓ノ腐敗スルモノ多ク何レモ不成績ナリキ

大正十年 發芽稍不良ニシテ其後ノ發育モ亦良好ナラス不成績ナリキ

石 刀 柏

植付初年ニ於ケル原肥及補肥用量一反歩當

原肥施用期 大正七年三月二十九日
 補肥用量一反步當

原料	總量	原肥	補肥	價格
堆肥	八〇〇ノ	五〇〇ノ	三〇〇ノ	一六〇〇〇 円
人糞	六〇〇	三〇〇	三〇〇	九〇〇〇
大豆粕	三〇	一五	一五	七五〇〇
計	一	一	一	三二五〇〇

原料	總量	補肥		價格
		第一回	第二回	
堆肥	五〇〇ノ	五〇〇ノ	一ノ	一〇〇〇〇 円
人糞	六〇〇	三〇〇	三〇〇	九〇〇〇
大豆粕	三〇	一五	一五	七五〇〇
過磷酸石灰	三	三	一	六四五
木灰	二〇	二〇	一	五〇〇
計	一	一	一	二七六四五

比較栽培

六五

供試品種及其ノ行事並ニ收穫狀況

品 種 名	畦幅	株間	作付 數	植付期	補肥期		軟化覆土期		覆土 除去期	收穫期	年試 數	收穫量	一反歩 平均收 量
					第一回	第二回	第一回	第二回					
コロツサル	四尺	二尺	二五歩	大正七年三月廿日下	五月中旬	五月下旬	三月下旬	四月上旬	五月下旬	自四月中旬至五月下旬	大正八年	二、〇三	二五、三四
ヂヤイアント、 フレント、	四〇	二〇	一三	同	同	同	同	同	同	同	同	三、〇八	七六、三八
マンモース、 ホワイト	四〇	二〇	六四	同	同	同	同	同	同	同	同	八、八六	四一、五六
マンモース、 マンモース	四〇	二〇	四五	同	同	同	同	同	同	同	同	五、九三	三四、六〇

生育狀況

大正八年

大正六年四月冷床ニ下種シ同年六月下旬畦幅一尺株間三寸ニ移植シテ翌年本

畑ニ定植セリ定植後ノ生育頗ル良好ナリシカ尙株ノ肥太ヲ促サンカタメ本年ハ軟莖ノ採收

モ其一部ニ止メタルニ過キス

大正九年

發育普通ナリシモ未タ所期ノ收量ヲ得ス

大正十年

烈寒ノタメ枯死株ヲ生シタルヲ以テ減收スルニ至レリ

草 莓

肥料用量一反歩當

原料	總量	第一回		第二回		價格
		補	肥	補	肥	
堆肥	100%		100%		100%	4000円
人糞	100%		100%		100%	1500
荏粕	100%		100%		100%	3750
大豆粕	100%		100%		100%	7500
過磷酸石灰	100%		100%		100%	2580
木灰	100%		100%		100%	750
計						11000

當場ニ於テハ草苳ハ三年目毎ニ更植シツ、アリ本表ハ大正九年ニ更植ヲ行ヒ翌十年ノ成績ヲ示スモノナリ

供試品種及其ノ行事並ニ收穫狀況

品種名	畦幅	株間	作付 年付	植付 年月日	發芽 日期	初開 花	中耕及補肥期		葉敷	防寒期	防 除 去 期	收穫期	收穫量	一反歩改 算收穫量
ドクトル、 モ一レ、 サイジョセフ、 バクストン、 ビクトリア	20 尺	12 尺	同	10月1日、 6月、 8月、 9月	3月13日	4月28日	3月13日	9月5日	4月9日	2月15日	6月16日、 6月23日	7月16日、 7月23日	7416 233480	274140
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	10393 311790	274140

比較栽培

原料	總量	原肥	價格
荳粕	〇	〇	二五〇〇
過磷酸石灰	〇	〇	二一五〇
木灰	一〇〇	一〇〇	五〇〇
計	一〇〇	一〇〇	五、一五〇

原肥施用期 五月下旬

苗 溫床仕立

供試品種及其ノ行事並ニ收穫狀況

品種名	畦幅	株間	作付數	下種期	插植期	蔓返シ		收穫期	年試數作	收穫量	一反步改算平均收穫量
						第一回	第二回				
元氣	二〇尺	一〇尺	一〇四步	自三月下旬至四月上旬	五月下旬	同	同	同	同	一六三、五一八	四七、二六八
川越	二〇	一〇	五	四月中旬	六月上旬	同	同	同	同	七、四四〇	四四六、四〇〇
鎌倉	二〇	一〇	六五	同	同	同	同	同	同	六、九四〇	三三〇、三〇八

插植法 船底植
生育狀況

大正六年 插植ニ際シ乾燥甚シカリシヲ以テ二尺ノ盛畦上ニ細溝ヲ切り其中ニ灌水シテ

比較栽培

挿植ヲ行ヒシカ活着概ネ良好ニシテ平作ヲ得タリ
 大正七年 挿植當時氣候稍乾燥ナリシヲ以テ多少衰弱セシカ六月上旬ノ潤雨以來漸次發
 育良好トナリ八月中旬浸水ヲ蒙リタルニモ係ハラス平作ヲ得タリ
 大正八年 降雨後直ニ挿植セシヲ以テ活着良好ナリシカ發育ノ盛期ニ浸水ヲ蒙リ其後ハ
 極端ナル乾燥ニ遇ヒ豫期ノ成績ヲ得ルコト能ハサリキ
 大正九年 活着良好ナリシカ發育ノ盛期ニ二回ノ浸水ヲ蒙リタルノミナラス水害後土地
 冷濕ニ失シタルヲ以テ不成績ニ終レリ
 大正十年 發育稍不良ニシテ平作ニ達セス

里芋

肥料用量(一反步當)

原 料	總 量	原 肥	補 肥		價 格
			第 一 回	第 二 回	
堆 肥	300	300	1	1	5580
人 糞 尿	300	100	100	100	3438
大 豆 粕	10	10	10	1	7104

過 磷 酸 石 灰	二 〇 七	二 〇 七	一 八 九 〇 四
木 灰	二 〇 七	二 〇 七	一 八 九 〇 四
計	二 〇 七	二 〇 七	一 八 九 〇 四

原肥施用期 五月上旬

供試品種及其ノ行事並ニ收穫狀況

品 種 名	畦 幅	株 間	作 付 步 數	下種期		中耕及補肥期		土寄期		收 穫 期	年 試 數	一 反 步 改 算 平 均 收 穫 量		
				第一回	第二回	第一回	第二回	第一回	第二回			子 芋	親 芋	總 計
八 ツ 頭 芋	三〇 尺	三〇 尺	二 六 九 步	五 月 中 旬	七 月 下 旬	八 月 下 旬	八 月 中 旬	八 月 上 旬	八 月 下 旬	十 月 下 旬	大 正 六、八、 九、十、 大 正 六、九 年	五 六 九 五 三	三 二 六 五 七〇	三 七 三、五 三三
早 生 芋	三〇 尺	三〇 尺	二 五 四 五 步	五 月 上 旬	同	八 月 上 旬	八 月 上 旬	八 月 下 旬	自 十 月 中 旬 至 十 月 下 旬	自 大 正 六 年 至 大 正 九 年	三 〇 八、三 四三	一 五 八、三 三〇	四 六 六、六 七三	

催芽法 下種期ハ毎年土地ノ乾燥甚シク發芽容易ナラサルヲ以テ下種ニ先ニスルコト約二週間前ニ於テ他ノ苗類ヲ養成シタル温床跡ニ種芋ヲ伏セ萌芽ヲ促シタル後栽植ヲナセリ生育狀況

大正六年 乾燥甚シカリシタメ各種トモ發育不良ニシテ分蘖モ尠ク從テ收量モ減少セリ

大正七年 平作ヲ得タリ

大正八年 七月ニ於ケル洪水ノタメ著シク發育ヲ害セラレタルノミナラス其後ハ近年稀

有ノ乾魃ニシテ莖葉ノ萎凋甚シク中ニハ枯葉ヲ生スルニ至レルヲ以テ灌水ヲ行ヒシモ分蘖

並ニ子實ノ充實宜シカラスシテ稍不成績ニ終レリ
 大正九年 早生芋畑低位ナリシカハ七八月ノ洪水ニ際シ土砂ノ流入堆積スルコト三寸餘
 ニ達シタルヲ以テ土地冷濕ニ陥リ子芋ノ發育ヲ害セリト雖モ成績ハ普通ナリキ
 大正十年 發育稍不良ニシテ平作ヨリ不成績ニ終レリ

馬鈴薯

肥料用量(一反步當)

原料	總量	原肥	補肥	價格
堆肥	二五〇ノ	二五〇ノ	ノ	五〇〇〇 <small>円</small>
人糞尿	二〇〇	一〇〇	一〇〇	三〇〇〇
過磷酸石灰	六	六	ノ	一、二九〇
木灰	二五	二五	ノ	六二五
計	ノ	ノ	ノ	九、九二五

原肥施用期

三月下旬

供試品種及其ノ行事並ニ收穫狀況

品 種 名	畦幅	株間	作付 歩數	下種期	補肥期	中耕及土寄期		摘花期	收穫期	年試 數作	一 反 步 改 算 收 穫 量
						第一回	第二回				
アーリー、ローズ	二五 ^尺	二五 ^尺	三 ^歩	五月上旬	六月上旬	六月上旬	六月中旬	六月中旬	九月下旬	大正十年	一、二五、七二四 ^匁
スノー、フレイキ	二五	二五	二九	同	同	同	同	同	同	同	九六五、一七二
咸南在來種	二五	二五	四	四月上旬	五月下旬	五月下旬	六月下旬	六月上旬	九月中旬	同	二、三七、五〇〇
春川在來種	二五	二五	七五	同	同	同	同	同	九月下旬	同	八五五、九九九

生育狀況 各種共發芽良好生育旺盛ニシテ豫期ノ成績ヲ得タリ

薯 蕷

肥料用量(一反步當)

原 料	總 量	原 肥	價 格
堆肥	100 ^匁	100 ^匁	三、八六七 ^四
人糞尿	100	100	一、六二〇

比較栽培

過 木 計	磷 酸 灰	石 灰	六 二〇 一	六 二〇 一	二〇九 五 八〇 五九
-------------	-------------	--------	--------------	--------------	----------------------

原肥施用期 四月中旬

供試品種及其ノ行事並收穫狀況

品 種 名	畦 幅	株 間	步 作 數 付	下 種 期	中 耕 期	支 柱 立	收 穫 期	年 試 數 作	一 反 步 改 算 平 均 收 穫 量
伊勢イ 兵 庫 芋	二〇 尺	一五 尺	三五 步	四月中旬	七月上旬	五月下旬	十月下旬	大正六、十年	二七三、七五〇 匁
長 芋	二〇	一五	五八、〇	同	同	同	同	大正六、九、十年	四三七、八四四

生育狀況

大正六年 平作ヲ得タリ

大正九年 五月ノ降雹ニテ蔓ノ折損スルモノ多カリシノミナラス二回ニ亘ル水害ノ爲メ長芋ハ一部腐敗ヲ生セシタメ不成績ヲ招キタリ然レトモ兵庫薯ハ水害更ニナク好成绩ヲ得タリ

大正十年 生育良好ニシテ平作ヲ得タリ

胡蘿蔔

肥料用量(一反步當)

原 料	總 量		原 肥		補 肥		價 格
	第一回	第二回	第一回	第二回	第一回	第二回	
人 糞 尿		300 貫		100 貫		100 貫	4500 円
桂 粕		20		15		5	5000
米 糠		6		6			2300
過 磷 酸 石 灰		3		3			645
木 灰		20		20			500
計		1		1			2865

原肥施用期 五月下旬

供試品種及其ノ行事並ニ收穫狀況

品 種 名	畦幅株間	作付 步數	下種 期	補 肥 期		中 耕 期		間 引 期		收 穫 期	年 試 數 作	平均收穫量 (葉ヲ除ク)	一反步改算 平均收穫量 (葉ヲ除ク)	
				第一回	第二回	第一回	第二回	第一回	第二回					
三 寸	20 尺	條播	四七 步	五月下旬	七月中旬	八月下旬	六月下旬	八月下旬	七月上旬	八月上旬	自十月下旬 至七月中旬	大正六、 七八、十 年	八〇四七五 匁	五〇八二六三 匁

比較栽培

七五

原料	總量	原肥	補肥	肥價	價格
堆肥	100貫	100貫	100貫	1貫	2000
人糞	200	100	100	1貫	3850
佳粕	200	200	1	1	7150
過磷酸石灰	6	6	1	1	2589
木灰	20	20	1	1	600
計	1	1	1	1	16187

原肥施用期 四月中旬

供試品種及其ノ行事並收穫狀況

品種名	畦幅	株間	作付數	下種期	中耕及補肥期	間引期	年試數作	收穫期	一反步改算平均收穫量
札幌	30尺	3條播	350步	四月上旬	六月上旬	第一回 五月下旬 第二回 六月中旬 第三回 六月下旬	大正九、十年	自七月中旬至七月下旬	469500
梅田	30	3條播	325	同	同	同	同	同	430859

生育狀況

大正九年

生育良好ナリシカ七月上旬及八月上旬ニ於ケル再度ノ出水ノタメ成績不良ニ

比較栽培

終レリ

大正十年 發育良好ニシテ豊作ヲ豫期セシカ 蚜蟲ノ發生甚シク夫レカ爲品質及收量ヲ減シ又梅田ハ殊ニ品質不良ナリキ

春作甘藍

肥料用量一反步當

原料	總量	原肥	補肥		價格
			第一回	第二回	
堆肥	三〇〇 貫	三〇〇 貫	一〇〇 貫	一〇〇 貫	六〇〇〇
人糞尿	四〇〇	一〇〇	一〇〇	二〇〇	六〇〇〇
荏粕	一五	一	一五	一	三、七五〇
大豆粕	一五	一五	一	一	三、七五〇
米糠	一五	一五	一	一	三、七五〇
過磷酸石灰	七	七	一	一	一、五〇五
木灰	二五	二五	一	一	六二五
計	一	一	一	一	二、一八五

原肥施用期 四月下旬

苗 温床仕立

供試品種及其ノ行事並ニ收穫狀況

品 種 名	畦幅	株間	作付 歩数	下種期	移植期	中耕及補肥期		收穫期	試作 年数	收 穫 球 数	收 穫 量	一反歩改算平均	
						第一回	第二回					收穫球数	收 穫 量
サット ンズ、 テン ダー アンド、 ツ ル	一、〇 尺	〇、八 尺	一九 歩	自 肩下 旬 至 肩上 旬	自 肩下 旬 至 肩上 旬	同	五月下旬	自 肩下 旬 至 肩下 旬	大正七年	五九九 個	一、二六、〇〇〇 匁	九四五六 個	一、九九一、〇五三 匁
ドラム ヘッド	二、〇	一、五	三八	同	同	同	六月中旬	自 肩下 旬 至 肩中 旬	自大正 六年	三九三	一、三三、七二七	三、一〇八	一、〇五五、六六一
ア ー リ ル	二、〇	一、五	二二	同	同	同	自 肩中 旬 至 肩中 旬	自 肩中 旬 至 肩中 旬	大正八、 九年	一〇八	六、二七五	二、九四六	一、二六七、二二六
ゼ ー ル シ ル	二、〇	一、五	一〇	同	同	同	自 肩中 旬 至 肩中 旬	自 肩中 旬 至 肩中 旬	大正八年	一一七	三、六九〇〇	三、五一〇	一、一〇七、〇〇〇
ウ エ キ フ キ ル ド	二、五	二、〇	五七	同	同	同	六月中旬	自 肩中 旬 至 肩中 旬	大正七年	三三四	二、四三、六二〇	一、七〇五	一、二八二、二一一
バン ダ ー ゴ ー	三、〇	二、〇	四一五	同	同	同	自 肩中 旬 至 肩中 旬	自 肩中 旬 至 肩中 旬	大正六、 七年	一六六	一、三九、三八〇	一、二〇三	一、〇〇七、五六六
サク セツ シ ヨ ン													

生育狀況

大正六年 降雨少ク乾害ノタメ各種共好成績ヲ得ス

大正七年 移植前後時々降雨アリシヲ以テ活着佳良ニシテ其後ノ生育モ亦盛ニシテ好成績ヲ得タリ

大正八年

早生種ハ何レモ發育良好ニシテ相當ノ成績ヲ得タリト雖晩生種ハ結球期ニ際シ洪水ニ遇ヒ腐敗スルモノ續出シ著シク不成績ニ終レルヲ以テ右表ヨリ除去セリ

比較栽培

大正十年 移植後ノ活着良好ニシテ好成绩ヲ得タリ

秋作甘藍

肥料用量 春作甘藍ニ同シ

原肥施用期 七月上、中旬

供試品種及其行事並ニ收穫狀況

品種名	畦幅	株間	作付 步數	下種期	移植期	中耕及補肥期 第一回 第二回	收穫期	收穫 球數	收穫量	試作 年數	一反步 收穫球數	一反步 改算平均 收穫量
サクセツション	三、〇 尺	二、五 尺	一、〇〇 步	六月上旬	七、中 月	八月中旬 九月中旬	自十月中旬 至十二月上旬	四五三 個	三五六、三〇〇 匁	大正八年	一、二三五 個	九七二、七二七 匁
バンダーゴ	二、五 尺	二、〇 尺	一、三三 步	同上	同上	同上	自十一月上旬	六六九 個	五二八、六八〇 匁	大正七年	一、六三二 個	一、二六五、〇七三 匁

生育狀況

大正七年 移植後生育佳良ナリシカ八月中旬ノ洪水ニ際シ全部浸水ノ厄ニ遭ヒタリ然レトモ栽培ノ位置高カリシヲ以テ其時間短カ、リシカハ水害ノ影響少ク好成绩ヲ得タリ

大正八年 苗床ニ於テ七月ノ洪水ニ草丈ヲ没シタルモ移植後ハ遂次勢力ヲ恢復シテ發育旺盛トナリ好成绩ヲ得タリ

漬菜類

肥料用量(一反步當)

原肥料	總量	原肥	補肥		價格
			第一回	第二回	
堆肥	300 貫	300 貫	150 貫	1 貫	6000 円
人糞尿	250 貫	100 貫	150 貫	1 貫	3750 円
硫酸アンモニア	8 貫	1 貫	1 貫	8 貫	6240 円
住粕	15 貫	10 貫	5 貫	1 貫	3750 円
過燐酸石灰	3 貫	3 貫	1 貫	1 貫	645 円
木灰	7 貫	7 貫	1 貫	1 貫	175 円
計	1 貫	1 貫	1 貫	1 貫	10560 円

原肥施用期 七月中旬

供試品種及其ノ行事並ニ收穫狀況

比較栽培

品 種 名	畦 幅	株 間	作 付 步 數	下 種 期	中 耕 及 補 肥 期	間 引 期	收 穫 期	試 作 年 數	收 穫 量	一 反 步 改 算 平 均 收 穫 量
芝 采	二 尺 五	一 尺 五	三 二 步 中 七 下 旬	八 月 中 旬	第 一 回 九 月 下 旬	第 一 回 八 月 上 旬 第 二 回 九 月 中 旬	自 十 月 上 旬 至 十 一 月 下 旬	大 正 七 年 九 月	一 三 三 九 八 五 三 粒	一 二 九 二 四 六 三

生育狀況

大正六年 發芽齊一發育モ亦概ネ良好ニシテ平作ナリキ

大正七年 發芽齊一其後ノ發育良好ナリシカ同月下旬ヨリ蚜蟲ノ被害アリシヲ以テ除蟲

菊石鹼合劑ヲ以テ蚜蟲ノ驅除ヲ行ヒタリ又九月下旬ヨリ畦間ニ灌水ヲ行ヒ過乾ヲ防キシカ

其成績頗ル良好ニシテ一株ノ大サ一貫八百匁以上ニ達スルモノ少カラス

大正九年 乾燥ノタメ毎年蚜蟲ノ被害大ナルヲ以テ當年ハ試ニ六月二十二日畦幅二尺五

寸ニ大豆ヲ下種シ七月二十一日其中間ニ白菜ノ播付ヲ行ヒシカ不幸ニシテ八月ノ洪水ニテ

白菜ハ全滅ニ歸シタルヲ以テ八月九日第二回ヲ下種シ大豆ハ九月十一日家畜飼料トシテ過

半ヲ刈リ取り殘餘ハ十月三日ニ刈リ取り相當ノ收實ヲ得タリ而シテ大豆ヲ間作セシ結果蚜

蟲ノ被害ハ極メテ少ク又過半收實ヲ行ヒ加フルニ晚秋稀有ノ高温ヲ持續セシカハ下種期ノ

遅レタルニモ係ハラス其成績良好ニシテ此方法ハ一舉兩得ナルヲ認メタリ

蘿 蔔

肥料用量(一反步當)

原料	總量	原肥	第一回		第二回		價格
			補	肥	補	肥	
人糞尿	四〇〇	一〇〇		二〇〇		一〇〇	六〇〇〇
大豆粕	一六	〇		六			四〇〇〇
米糠	三	三					一一一
過磷酸石灰	〇	〇					二二五〇
木灰	〇	〇					二五〇
計							一二五一一

原肥施用期 七月下旬

供試品種及其ノ行事並ニ收穫狀況

品種名	畦幅	株間	作付 步數	下種期	中耕及補肥期		間引期		收穫期	試作年數	一反步改算平均收穫量
					第一回	第二回	第一回	第二回			
聖護院	二五尺	一五尺	六三歩	七月下旬	八月下旬	九月下旬	八月下旬		自十月下旬至七月上旬	大正十年	一、八〇七、一四三
練馬	二五	一〇	二八	八月上旬	同	同	八月中旬		自十月中旬至七月上旬	同	七、八二、七七
方領	二五	一三	二五	同	同	同	同		自十月上旬至七月上旬	同	五九、一六〇
宮重	二五	一三	二	同	同	同	同		十一月下旬	同	七〇、二八、五七

比較栽培

生育狀況 秋期乾燥強キ年ハ蚜蟲ノ被害大ニシテ好成績ヲ得ルコト困難ナルヲ以テ本年ヨリ六月下旬ニ畦幅二尺五寸トシ之レニ大豆ヲ下種シ適度ノ日蔭ヲ設ケ其ノ中間ニ蘿蔔ノ播付ヲ行ヒタルヲ以テ生育良好ニシテ成績可良ナルヲ得タリ大豆作ハ蚜蟲ヲ防クニ止マラス之レヲ家畜ノ飼料トシ又相當ノ收量ヲ得ルヲ以テ一舉兩得ナリトス

茄子

肥料用量(一反步當)

原料	總量	原肥	補肥		價格
			第一回	第二回	
堆肥	三〇〇 貫	三〇〇 貫	—	—	六〇〇〇
人糞	四〇〇	一〇〇	—	—	六〇〇〇
荳粕	一〇	一〇	—	—	二二五〇
荳粕	五	—	五	—	二二五〇
米糠	一五	一五	—	—	一八七三〇
過磷酸石灰	一〇	一〇	—	—	六三五
木灰	二五	二五	—	—	二二五〇
計	—	—	—	—	一八七三〇

原肥施用期 五月上旬

苗 温床仕立

供試品種及其ノ行事並ニ收穫狀況

晚 生 山	畦幅	尺四〇	作付 下種期	移植期	中耕及補肥期	支柱立	收穫期	試作 年數	收穫量	收穫 噸數	一反歩 改算平均 收穫噸數
	株間	尺三〇									
			五月下旬	五月上旬	六月中旬	七月上旬	自白 至白	自大 至大	七三・七二八	七九・九八	九六五・五四

生育狀況

大正六年 生育普通ニシテ平作ナリキ

大正七年 移植後ノ活着良好ナリシカ八月中旬浸水ノタメ褐斑病ニ侵サレ草勢衰へ不成

績ニ終レリ

大正八年 七月洪水ノ浸害ヲ蒙リ又其後稀有ノ旱魃ニ遭遇セシニモ拘ハラズ相當ノ成績

ヲ得タリ

大正九年 移植後間モナク激シキ雹害ヲ受ケ最早恢復ノ見込ナキモノハ補植ヲ行ヒシカ六

月下旬ニハ發育良好ナルニ至レリ其後七、八月ノ二回ニ亘ル未曾有ノ水害ヲ受ケテ一時ハ悉

ク落顛セシニモ拘ハラズ相當ノ成績ヲ得タリ

大正十年 移植後ノ發育稍不良ニシテ平作ヲ得ルコト能ハサリキ

胡瓜

肥料用量一反步當

原	料	總	量	原	肥	補	肥	價	格
堆肥	人糞尿	荏粕	過磷酸石灰	木灰	計				
300貫	200	25	20	0	1				
300貫	100	15	20	0	1				
5.580	3.438	7.715	6.174	2.10					
2.317									

原肥施用期 四月下旬

供試品種及其ノ行事並ニ收穫狀況

節	成	品	種	名	畦	幅	株	間	步	作	數	付	下	種	期	補	肥	期	支	柱	立	收	穫	期	試	作	年	數	收	穫	量	
					4尺		2尺		26步				四月下旬		六月下旬		六月中旬		自七月上旬 至八月下旬		自大正六年 至大正十年		605.433									

青	大	四〇	二〇	九三	五月上旬	六月中旬	六月下旬	自七月下旬 至九月上旬	大、十 年正	七二、二九四
清國	三尺	四〇	二〇	七三	四月中旬	六月下旬	六月中旬	自七月上旬 至八月中旬	自大正七年 至大正九年	八三、七三、五四

生育狀況

大正六年 發育良好ナリシカ七月中旬頃ヨリ蚜蟲ノ發生夥シク之カ防除ニ努メタルモ成績不良ニ終レリ

大正七年 發育旺盛ニシテ平作ヲ得タリ

大正八年 下種後低溫持續シタルタメ發芽不良ニシテ補播ヲ行ヒタルニモ拘ラス其ノ後ノ生育ハ概シテ良好ニ進ミツ、アリシカ七月上旬漢江氾濫ノタメ十數時間浸水ニ遭ヒ一時其ノ生育ヲ害セラレ又同中旬ニ至リ露菌病ノ多少發生ヲ認メタルヲ以テ直ニ三斗式ホルド液ヲ撒注シ防除ニ努メタルシカ其ノ效果著シク僅ニ一回ノ撒注ニヨリ殆ント被害ヲ免レ又發育ヲ恢復シ良好ナル成績ヲ舉クルヲ得タリ

大正九年 前年ト同様發育良好ニシテ露菌病ハ六月下旬四斗式ホルド液ノ撒注ニヨリ防除ヲ行ヒタルモ七月上旬及八月上旬ニ於ケル二回ノ大出水ニ因リ草勢著シク衰弱シ不成績ニ終レリ

大正十年 生育良好ニシテ何等ノ障害ナク成績優良ナルヲ得タリ

南 瓜

肥料用量一反步當

原 料	總 量	原 肥	補 肥	價 格
堆 肥	三〇〇 <small>貫</small>	三〇〇 <small>貫</small>	一 <small>貫</small>	五五〇〇 <small>円</small>
人 糞 尿	三〇〇	一〇〇	二〇〇	二四〇〇
荏 粕	三	六	六	三六四八
米 糠	三	三	三	七八八
過 磷 酸 石 灰	一〇	一〇	一	二二六八
木 灰	二五	二五	一	四七七
計	一	一	一	一五一八一

原肥施用期 四月下旬
供試品種及其行事並收穫狀況

縮 緬	畦 幅	株 間	作 付 步 數	下 種 期	移 植 期	中 耕 及 補 肥 期	收 穫 期	試 作 年 數	一 反 步 改 算 平 均 收 穫 量
	六〇 <small>尺</small>	六〇 <small>尺</small>	三三三 <small>步</small>	三月中旬	五月上旬	五月下旬	自七月下旬至十月中旬	大、八、十年	八五一、九三 <small>匁</small>

内藤	六〇	六〇	二五三	同	同	同	自七月中下旬 至十月中旬	大正八年	九六四、五六一
三毛門	六〇	六〇	一〇〇	同	同	同	自七月上旬 至十月中旬	大正八年	一二九七、五〇〇

生育狀況

大正七年 發育良好ナリシモ出水ノタメ減收セリ

大正八年 甚シク水害ヲ蒙リタルモ其後漸次草勢ヲ恢復シ相當ノ結實ヲ見タリ然レトモ

品質ハ良好ナラス

大正十年 發育良好ニシテ豊作ヲ得タリ

越 瓜

肥料用量(一反步當)

原 料	總 量	原 肥	補 肥	價 格
堆肥	三〇〇 貫	三〇〇 貫	一 貫	五、五〇〇 円
人糞尿	二〇〇	一〇〇	一〇〇	一、六〇〇
荏粕	二〇	一〇	一〇	六、〇〇〇
米糠	一〇	一〇	一	六、五五六
過磷酸石灰	六	六	一	一、四、二二

比較栽培

木	計	灰	ニ〇	ニ〇	一	一	一五六三八	三八一
---	---	---	----	----	---	---	-------	-----

原肥施用期 四月下旬

供試品種及其ノ行事並ニ收穫狀況

品 種 名	畦 幅 株 間	作付歩數	下種期	中耕及 補肥期	收穫期	試作年數	一反歩改算平均收穫量
東 京 大	四尺 四〇	三尺 三〇	一六 ^歩 四月下旬	同 六月中旬	同 自八月上旬 至八月中旬	同 七、八、十年 ^正	九、四、五、六、 五、四、一、三、四、六
桂	同	同	同	同	同	同	同

生育狀況

年ニヨリ浸水ヲ蒙リタルモ被害少ナクシテ各年トモ大差ナク平作ヲ得タリ獨リ大正十年ハ日射強烈ノタメ草勢衰弱シ結實ノ發育ヲ害サレ成績良好ナラス

冬 瓜

肥料用量一反歩當

原料	總量	原肥	補肥	價格
堆肥	300 貫	300 貫	300 貫	5700 円
人糞	300	100	200	2985
荏粕	11	6	6	3900
米糠	11	11	11	735
過磷酸石灰	10	10	10	2365
木灰	25	25	25	540
計	1	1	1	1625

原肥施用期 四月中旬

供試品種及其ノ行事並ニ收穫狀況

品種名	畦幅	株間	作付步數	下種期	中耕及補肥期	收穫期	試作年數	一畝最重量	平均一畝重量	一反步改算平均收穫量
臺灣大	六〇 尺	六〇 尺	一七五 步	四月下旬	六月中旬	自九月中旬至十月上旬	大正八年、十年	三九〇〇 匁	二七〇二 匁	一、一八九五〇〇 匁

生育狀況

大正八年 下種期ハ比較的低温ナリシタメ發芽後ノ生育稍不良ナリシモ漸次草勢ヲ恢復

比較栽培

シ好成績ヲ得タリ
大正十年 豊作ヲ得タリ

甜瓜

肥料用量(一反步當)

原料	總量	原肥	補肥	價格
堆肥	三〇〇 貫	三〇〇 貫	一 貫	四 五 五四七五
人糞尿	二〇〇	一〇〇	一〇〇	一六九〇
佳粕	二〇	一〇	一〇	五三九〇
米糠	一〇	一〇	一	五九〇
過磷酸石灰	六	六	一	一三四三
木灰	二〇	二〇	一	三五一
計	一	一	一	一四、八三九

原肥施用期 四月下旬
供試品種及其ノ行事並ニ收穫狀況

梨	品種名	畦幅	株間	作付歩數	下種期	中耕期	補肥期	收穫期	試作年數	一反步改算平均收穫量
		三〇尺	三〇尺	一八步	四月下旬	六月中旬	六月下旬	自八月中旬至九月上旬	大正六、七、八、十年	五二〇・六五

生育狀況 各年トモ生育良好ニシテ平作ヲ得タリ

葱

肥料用量一反步當

原料	總量	原肥	補肥			價格
			第一回	第二回	第三回	
堆肥	三〇〇 <small>貫</small>	三〇 <small>貫</small>	一五〇	二〇〇	一五〇	五五八〇 <small>圓</small>
人糞尿	六〇〇	一〇〇	一五〇	二〇〇	一五〇	六八七六
住粕	三〇	一五	一〇	五	一	九二五八
米糠	一五	一五	一	一	一	二〇三・一
過磷酸石灰	七	七	一	一	一	二一六三
木灰	二五	二五	一	一	一	五二六
計	一	一	一	一	一	二五七〇五

比較栽培

原肥施用期 六月上旬
 苗 冷床仕立
 供試品種及其ノ行事並收穫狀況

根 深	品 種 名	畦幅株間	作付	下種期	移植期	補 肥 期			土 寄 期				收穫期	試 作 年 數	一 反 步 改 算 平 均 收 穫 量
	三〇尺	〇一五尺	步數			四七步	第一回	第二回	第三回	第一回	第二回	第三回			

生育狀況

大正六年 頗ル良好ニシテ成績佳良ナリキ

大正七年 植付當時ハ氣候乾燥ニ過キシモ後チ潤雨ヲ得テ好成績ヲ得タリ

大正八年 洪水ノタメ前年ニ比シ減收セリ

大正九年 發育良好ナリシカ七月上旬及八月上旬ニ於ケル再度ノ出水ノタメ減收セリ

大正十年 植付當時ハ發育良好ナリシカ夏期炎天持續シタルタメ乾燥ニ過キ伸長惡シク成績良好ナラス

リ
 |
 キ

肥料用量一反步當

原料	總量		原肥		第一回		第二回		價格
	量	價	量	價	量	價	量	價	
堆肥	300	1.50	300	1.50	150	0.75	150	0.75	558.0
人糞	400	2.00	100	0.50	150	0.75	150	0.75	458.4
佳粕	300	1.50	150	0.75	150	0.75	150	0.75	925.8
米糠	150	0.75	150	0.75	150	0.75	150	0.75	1,302
過磷酸石灰	70	0.35	70	0.35	70	0.35	70	0.35	226.2
木灰	25	0.125	25	0.125	25	0.125	25	0.125	52.6
計	1,445	7.225	745	3.725	1,020	5.10	1,020	5.10	2,341.1

原肥施用期

六月中旬

苗

冷床仕立

供試品種及其ノ行事並ニ收穫狀況

品種名	畦幅	株間	作付 步數	下種期	移植期	補肥期		土寄期		收穫期	試作 年數	一反步改 平均收穫量
						第一回	第二回	第一回	第二回			
ジャイアント? ムツセルパーク	3.0尺	0.2尺	1.5步	四月上旬	七月上旬	八月中旬	九月中旬	九月下旬	十月中旬	十一月下旬	自大正九年 至大正十年	620.00

比較栽培

九五

アメリカン、フラッグ	三〇	〇、三	二四六	四月上旬	六月下旬	八月上旬	九月中旬	九月上旬	十月中旬	七月下旬	大正九年	七三二、二八八
モンストラウス	三〇	〇、三	四〇〇	同	七月上旬	八月中旬	同	九月中旬	同	七月上旬	大正九年	四五九、〇〇〇
ブライズ、テーカー	三〇	〇、三	五二、五	三月下旬	六月下旬	八月上旬	九月下旬	同	同	七月上旬	大正九年	七六二、七五〇
リオネスト	三〇	〇、三	五〇〇	四月上旬	同	七月上旬	八月上旬	九月上旬	同	七月中旬	大正六年	六九〇、〇〇〇
ラージルーエル	三〇	〇、三	五〇〇	同	同	同	同	同	同	同	大正六年	七二〇、〇〇〇

生育状況

大正六年 生育良好ニシテ平作ヲ得タリ

大正七年 發育良好ニシテ收量多カリシモ白莖ノ長サハ例年ニ劣レリ

大正八年 七月上旬ニ於ケル水害及其後ノ乾燥甚シカリシタメ草勢衰弱シ例年ニ比スレ

ハ成績稍不良ニ終レリ

大正九年 前年ト同シク水害ノタメ例年ニ比シ收量ヲ減セリ

大正十年 生育良好ナリシモ夏期ノ乾燥甚シカリシタメ草勢多少衰弱ヲ來タシタリト雖

モ平作ヲ得タリ

薑

肥料用量(一反步當)

原料	總量	原肥	補肥	價格
堆肥	200 貫	200 貫	1 貫	4000
人糞	300	100	200	4500
荏粕	20	20	1	1500
木灰	20	20	1	500
計	540	520	3	11500

原肥施用期 五月中旬

供試品種及其ノ行事並ニ收穫狀況

品種名	畦幅	株間	作付步數	下種期	補肥期	收穫期	試作年數	一反步改算收穫量
大豆	2.0 尺	1.0 尺	8 步	五月下旬	八月上旬	十月中旬	大正十年	360000 匁

生育狀況 生育可良ニシテ成績良好ナルヲ得タリ

冬 欸

肥料用量一反步當

原料	總量	補肥	價格
堆肥	300ノ	300ノ	6,000 <small>円</small>
人糞尿	200	200	3,000
大豆粕	30	30	7,500
計	1	1	16,500

補肥施用期 三月下旬

供試品種及其ノ行事並ニ收穫狀況

品種名	畦幅	植付年月日	作付步數	收穫期	試作年數	一反步改算收穫量
名古屋	20尺	大正九年五月廿八日	20步	自五月中旬至六月上旬	大正十年	928.500 <small>反</small>

生育狀況 發芽後生育極メテ良好ニシテ佳良ノ成績ヲ得タリ

芝罘白菜貯藏試驗

蔬菜類ノ冬期貯藏ニ就テハ前號屢々述フル所アリシカ大正十年更ニ芝罘白菜ノ貯藏ニツキ

試験ヲ行ヒタルヲ以テ其成績ノ概要ヲ示シ當業者ノ參考ニ資セン
 試驗方法

第一區 幅二尺深サ三尺長サ適宜ノ窖底ニ腐熟セル堆肥ヲ施シ白菜ノ根引トナシタルモノヲ多少ノ間隔ヲ置キテ二列ニ並植シ後寒氣ノ進ムニ從ヒ濶葉樹ノ落葉ヲ約四寸ノ厚サニ覆フ

第二區 綠葉ヲ去リ白球ノミトナシタルモノヲ第一區同様ニ貯藏ス

第三區 幅三尺深サ一尺七寸長サ適宜ノ窖中ニ根引トナシタルモノヲ多少ノ間隔ヲ置キテ三列ニ並植シ寒氣ノ進ムニ從ヒ葉端ノ沒スル迄籾殻ヲ投入シ其上ニ約二寸ノ厚サニ濶葉樹ノ落葉ヲ覆ヒ更ニ一尺内外藁ヲ重ネタリ

第四區 前區同様ノ窖中ニ根引シテ綠葉ヲ除キタルモノヲ倒ニ三列ニ並列シ其間ニハ少許ノ土ヲ介シ後二寸餘ノ覆土ヲ行ヒ寒氣ノ進ムニ從ヒ更ニ一尺ノ厚サニ土ヲ覆フ

第五區 前區同様ノ窖中ニ根引トシ綠葉ヲ除キタルモノヲ斜ニ三列ニ並植シ(其間ニハ少許ノ土ヲ介ス)寒氣ノ進ムニ從ヒ濶葉樹ノ落葉ヲ約四寸ノ厚サニ覆ヒ其上更ニ薄ク藁ヲ覆フ
 行事及其成績

區別	貯藏		防寒被覆期	調査	成績	調査	成績	調査	成績
	月日	第一回							
第一區	一二月三日	一二月七日	一二月五日	二月一日	殆ト異狀ナシ	二月三日	葉端結氷シ多少ノ傷ミヲ生ス	四月一日	傷ミ多ク抽臺八割以上ニ達シ殆ント食用ニ適セス

第二區	一一、三三	一一、二七	一一、五五	二、一	ニ、一 殆ト異狀ナシ	ニ、三	ニ、三 葉端結氷セルモ球ニハ殆 ント異狀ナシ	四、一	四、一 葉端傷ミ抽臺五割以上ニ 達スルモ他ハ食用ニ適ス
第三區	一一、二六	一一、三〇	一一、五五	ニ、一	ニ、一 葉端少シク結氷セルモ球 ニ異狀ナシ	ニ、三	ニ、三 同	四、一	四、一 同
第四區	一一、二六	一一、三〇	一一、五五	ニ、一	ニ、一 同	ニ、三	ニ、三 覆土結氷セルタメ堀り出 シ困難ナルモ白菜ハ葉端 僅ニ傷メル外異狀ナシ	四、一	四、一 同
第五區	一一、二六	一一、三〇	一一、五五	ニ、一	ニ、一 同	ニ、三	ニ、三 第二區ニ同シ	四、一	四、一 同

備考 貯藏期中ハ氷結セサル程度ヲ可トシ温暖ヲ忌ム故ニ貯藏期防寒被覆期又ハ被覆物
ノ厚薄ハ其年ノ氣候狀態ヲ考ヘ適宜斟酌ヲ要ス

右ノ方法ハ本年一回ノ試験ナルノミナラス其年ノ氣候狀態ニ依リ成績ヲ異ニスルハ明ナリ
故ニ今俄カニ之レカ優劣ヲ判定シ難シト雖右ノ結果ニ依レハ凡二月下旬マテハ何レモ安全
ニ貯藏シ得ヘク三月下旬ヨリハ春暖大ニ加ハルヲ以テ腐敗又ハ抽臺ヲナス之レヲ以テ見ル
トキハ一層窖ヲ深クシ温暖ヲ防クコトハ必要ナルカ如シト雖蓋シ四月後ノ貯藏ハ極メテ困
難ナルハ明ナルヘシ

果樹苗木接穗及挿穗配付表

自大正六年至大正十年朝鮮各道其他道外ニ配付シタル果樹苗木接穗並挿穗ノ數量左ノ如シ

果樹苗木

接穗及挿穗

種別		數量	人員
李杏及其他	葡萄	二九〇	四
梨	葡萄	四二〇八	三三
苹果	果	一五七〇	一七
	果	五八九 <small>本</small>	一七 <small>人</small>

種別		數量	人員
葡萄	葡萄	一、八九二	一五
梨	果	五〇八七	一五〇
苹果	果	二五八〇七 <small>本</small>	二二四 <small>人</small>

大正十一年三月二十八日印刷

大正十一年三月三十一日發行

非賣品

朝鮮總督府勸業模範場蘆島園藝支場

京城太平通二丁目一番地

印刷者 播本恒太郎

京城太平通二丁目一番地

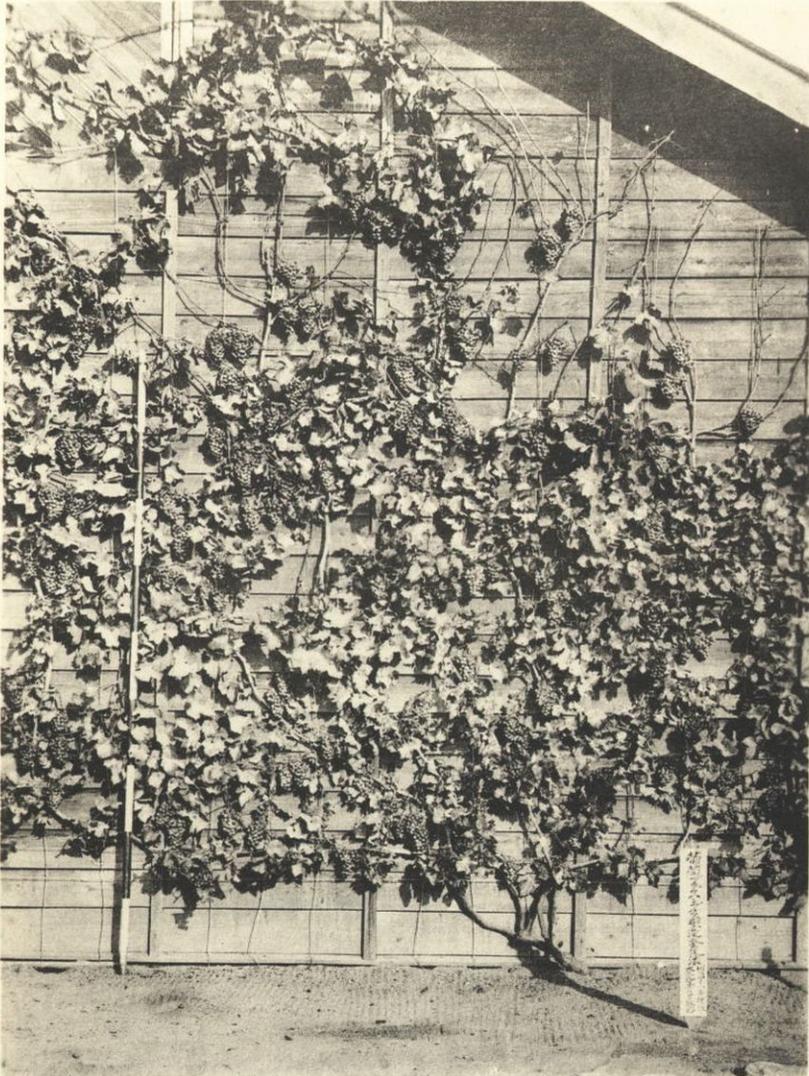
印刷所 株式會社 大海堂



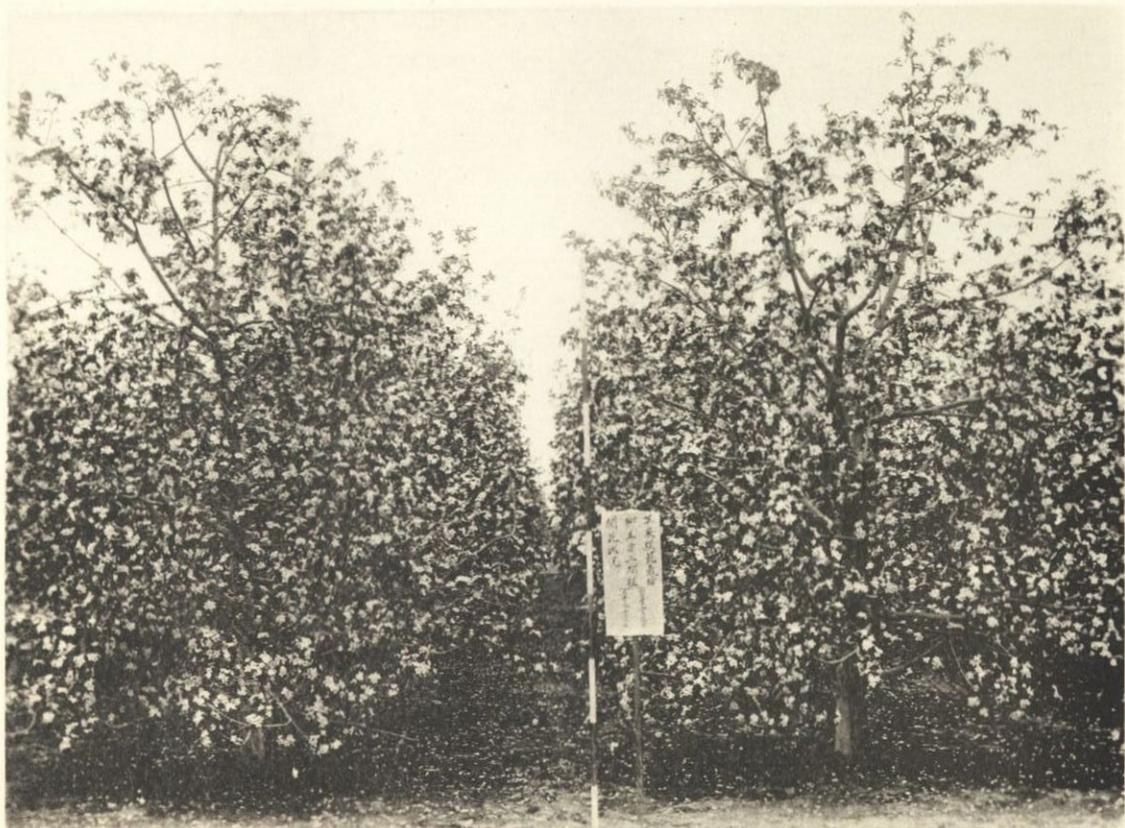
(一ノ其) ヲ 作 本 見
法 用 利 ノ 路 道



(二ノ其)リ作本見
法用利ノ傍路



(三ノ其) リ作本見
法 用 利 壁 物 建







羊車種銀花
紅花
1910年



梨種類比較
 明治四十二年
 ウチノオブ
 ウチノオブ
 結實状況



羊果模範栽培
 鳳凰卵方二間植
 結實狀況
 明治三十二年種付
 大正六年九月二日

